Catalog 2020-#1

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
プライス･コード{ａ￥１６９０/Ａ￥１８９０/Ｂ￥２０９０/Ｃ￥２２５０/Ｄ￥２４９０}
（表示価格は税抜き）　別途消費税が加算されます

（送料）
※ご注文枚数に関係なく《一律２５０円》郵送
ただしＬＰを含む場合は一律５００円。
※代金引換送料（郵送）：初回 390 円/二回目以降 590 円何枚でも）
ＬＰを含む場合は＋２５０円。

注文方法サイト：　http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm

【ご注文はできるだけ２/１５までにお願いします】
注文方法１の場合を除き、発送はご注文受取り後約５日以内にしたいと思っていますが、無理な場合もあります。締切日に近いご注文の場合は、２週間ほどかかる場合もあります。電話注文はお受けしておりません。
●お問合せはメールにてお願いします。
●ご注文の際、プライス又はプライス･コードをお書き願います。
●カタログは郵便にてお届けします。

（暖冬「春？夏？」気分カタログ）
*地球温暖化が顕著なこの冬、主に 1970 年代の放送局ライヴ音源の熱い SSW(Singer & Songwriter)系アルバムがこぞって入荷し、年明けから気分は「春？夏？」気分です。Delaney & Bonnie にしろ、Byrds(Roger McGuinn & Thunderbyrds も)にしろ、Poco にしろ、JohnPrine にしろ、はたまた Jackson Browne & David Lindley それに Ry Cooder & David Lindley にしろ今聴いても感動は全く変わらないですね。そして今、当時の Roger McGuinn の凄さを見直しています。
*SSW 系では懐かしい Terry Allen や Nils Lofgren の新作は「今が旬」気分でした。
*昨年、オーストラリアの Luke Plumb & Kate Burke の新作が好評でしたが、Kate Burke & Ruth Hazeleton の片割れの Ruth Hazeleton の新作も同年に発売されていて、これも滅茶苦茶良かった。プロデュースは Luke Plumb。Luke Plumb のブリティッシュ･フォーク＋αのセンスがお見事。
*今回初めてリトアニアのトラッドを仕入れてみました。音楽的なセンスが垢抜けていますね。これから欠かせない国になりそうです。
*前回新入荷のバスクの Osto Eta Ale のジャケ写を載せるのを忘れました。今回掲載しました。
*前回、"NEW ARRIVAL"で販売したアイルランドの Claire Nic Ruairi なる女性ゲーリック･シンガーの新作の注文がやたらと来ると思っていたら、彼女って某コンペティションでアイリッシュ･シンギングのチャンピオンだったんですね。別発送の方が多数ありまし

たが、どうにか皆さんに昨年内にお送り出来ました。

（分割払い）
*分割払いをご希望の方はお申し出下さい。最初のお支払いは請求額の半額になります。残り半額は3月25日まででＯＫです。

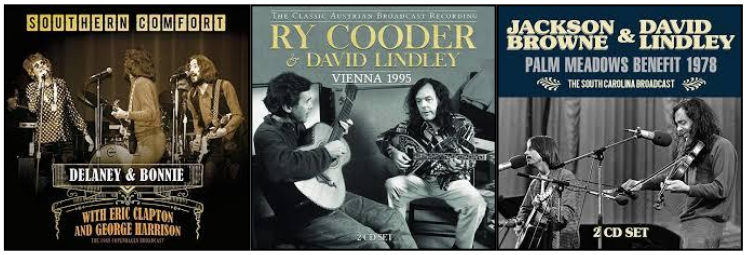
＊TOP 30 SELLERS(19－#6)＊
1)ARCHIE FISHER AND GARNET ROGERS
:The Best Times After All(Scotland,Canada)
2)MOZAIK:The Long And The Short Of It(Ireland,USA他)
3)ANDY IRVINE:Old Dog Long Road Vol.1 1961 - 2012(Ireland)
4)JOHN RENBOURN＋JACQUI McSHEE:An Evening With(England)
5)CLAIRE NIC RUAIRI:An Clar Bog Deil(Ireland)
6)LORRAINE JORDAN:Send My Soul(UK)
7)GWEN MAIRI:Mentro(Wales)
8)THE LASSES:Undone(The Netherlands)
9)BELONOGA:Through The Eyes Of The Earth(Bulgaria)
10)MESZECSINKA:Allj Bele A Melybe(Hungary)
11)HANNAH JAMES & THE JIGDOLL ENSEMBLE
:The Woman And Her Words((England,Scotland,Estonia他)
12)RALPH McTELL:Hill Of Beans(UK)
13)THE GREEN HOUSE BAND:Anthology(England)
14)MEENA CRYLE & THE CHRIS FILLMORE BAND:Elevation(USA)
15)THE ALLMAN BETTS BAND:Down To The River(USA)
16)HANNAH ROSE PLATT:Letters Under Floorboards(USA)
17)LOREENA McKENNITT:Live At The Royal Albert Hall(Canada)
18)THE CANNON HILL IRREGULARS:In Their Prime(England)
19)LANKUM:The Livelong Day(Ireland)
20)JACK TEMPCHIN:One More Time With Feeling(USA)
21)OSTO ETA ALE:Osto Eta Ale(Basque)
22)CROSBY,STILLS,NASH & YOUNG:Fillmore East 1970(USA)
23)ROGER McGUINN'S THUNDERBYRD
:Live At Rockpalast 1977(USA)
24)JON BODEN & THE REMNANT KING:Rose In June(England)
25)SUTHERLAND BROTHERS & QUIVER:The Albums(UK)
26)CIARAN TOURISH & KEVIN DOHERTY:Hotel Fiesta(Ireland)
27)PONS AELIUS:Fire Under The Bridge(Scotland)
28)HEDY WEST:Untitled(USA)
29)JEREMY NAIL:Ghost Of Love(USA)
30)AD VANDERVEEN:Final Refuge(Netherlands)

Guitar, Re-issue, USA, Canada, British Folk, England, Scotland,

Ireland, USA(Trad), Europe, Irish Dance関係(DVD), あとがき

（ジャケ写掲載分が初入荷と初コメント商品です）

[リイシュー/Historic Recording]
（CD/Ｕ．Ｓ．Ａ．）



（Delaney&Bonnie）　（R.Cooder&&D.Lindley）　（J.Browne&D.Lindley）

*DELANEY & BONNIE:Southern Comfort　C
（With Eric Clapton & George Harrison。Delaney & Bonnie の1969 年のライヴ・アルバム"On Tour With Eric Clapton"{70 年リリース}の収録日の五日後にデンマークのコペンハーゲンで行われたコンサートのライヴ盤。音源は放送局音源。メムバーは既出の四人に加えて、Dave Mason,Rita Coolidge,Jim Gordon,Bobby Whitlock,Jim Price,Bobby Keys,Tex Johnson。アトランティック・レコーズの Jerry Wexler はかつて「Delaney & Bonnie のスタジオ録音盤は彼らのライヴ・パフォーマンスの炎を全くキャッチしていない」と語っていたが、本作はその炎をばっちりキャッチしていて、もの凄い。Eric Clapton は Delaney & Bonnie と出逢ったことで、Blind Faith を見切って Delaney & Bonnie に弟子入り{?}を決めたことも、このライヴを聴けば納得。1969 年/2020 作。Shockwave。約半数がケースにヒビが入った状態で入荷。ケースを交換してお送りします）

*RY COODER & DAVID LINDLEY:Vienna 1995　D
（R.Cooder & D.Lindley が Ry が息子の Joaquin{ﾄﾞﾗﾑｽ、ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ}を David が娘の Roseanne{ヴォーカル、ギター}を連れて、両家族で 1995 年に行ったヨーロッパ・ツアー時にオーストリアで行ったライヴの FM ラジオ放送ライヴ音源からの二枚組。全 22 曲。二人が組めば落ち着く先は Ry の一枚目から五枚目の"Chicken Skin Music"までのブルース、カントリー、フォークそしてメキシカンだな、と名演奏家の二人が楽器演奏のコラボを楽しむように奏で出す緩い土の香りのする音楽とその二人と Roseanne のヴォーカルを味わいながら、思う。ディスク２では Roseanne のヴォーカルの出番が多く、彼女のブルージーなヴォーカルが南部色を濃くしている。これは予期せぬプレゼント。Ry の渋いスライド・ギターもたっぷり。1995 年/2019 作。Leftfield Media）

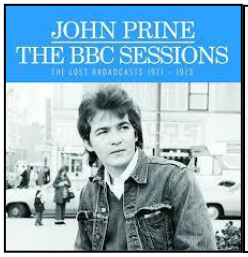
*JACKSON BROWNE & DAVID LINDLEY
　:Palm Meadows Benefit 1978　C
（J.Browne & D.Lindley による 1978 年のチャリティー・コンサートのライヴ二枚組。音源が FM ラジオということで、ラジオで二人のアコースティック・ライヴを聴いてる気分だが、J.Browne はピアノを弾き、David Lindley がフィドルやギターを奏でてぴったり付き添って生まれた J.Browne ソングの数々の何と美味なこと！LP で聴き親しんだ J.Browne ソングのより素の味わいに近い味わいが味わえるアルバムになっている。ゲスト:John B Sebastian。名曲ずらりの全 18 曲。ラストは"Will The Circle Be Unbroken"。1978 年/2019 作。Leftfield Media）

(Poco)　　(Byrds)　　(Roger McGuinn)

*POCO:Live,Wollman Skating Rink
　- New York 22nd August 1975　　C
(Poco の 1975 年の FM ラジオ放送ライヴ音源からの 16 曲。メムバーは Paul Cotton,Rusty Young,Timothy Schmit,George Grantham。曲目は 1971 年の"From The Inside"から 1975 年の"Head Over Heels"までの五枚のカントリー･ロックの歴史的名盤収録曲を中心にした選曲で、期待以上というか、やはりライヴは違うというか、無駄な化粧を削ぎ落とした Poco 流カントリー･ロックの心髄的な音楽を繰り広げていて、ぼくを含めてファンは極楽気分必至。音量がやや低めなので、ボリュームを上げて聴きましょう!1975 年/2019 作。Roxbox)

*THE BYRDS:Some Standing Alone　　¥2590
(副題"The Classic 1970 Amsterdam Broadcast"。The Byrds の 1970 年のオランダのアムステルダムでのライヴ二枚組。音源は放送局音源。メムバーは同年に発売された"Untitled"と同じ Byrds 史上最強？メムバーの Roger McGuinn,Clarence White,Skip Battin,Gene Parsons。60 年代に体現したバーズ流フォーク･ロックをさらにロック路線でパワーアップした無敵のフォーク･ロック。Lowell George の"Willin'"や Doobie Brothers の"Jesus Is Just Alright"や Bob Dylan の曲 6 曲を含む全 25 曲。ファンは終始夢の中保証。ディスク 1 のラストで"Mr.Tambourine Man"もやってくれてます。1970 年/2019 作。Shockwaves)

*ROGER McGUINN'S THUNDERBYRD
　:Live At Rockpalast 1977　　C
(1977 年 7 月 Roger McGuinn がドイツで行ったテレビ番組主催のコンサートを収録した DVD＋CD セット。バンド･メムバーは元 Fleetwood Mac の Rick Vito{ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ}､元 Poco の Charlie Harrison{ﾍﾞｰｽ､ｳﾞｫｰｶﾙ}そして名セッション･ドラマーの Greg Thomas。R.McGuinn と C.Harrison の二台のエレキ･ギターがギターの競演をし、かつ R.Mcguinn はギターで魅惑の Byrds サウンドを奏でつつ汗だくになって熱唱する。"Mr.Tambourine Man"や"Turn,Turn,Turn"や"Eight Miles High"や"Mr.Spaceman"等などの新旧の名曲 15 曲をこれまた無敵のフォーク･ロックで繰り広げる。メチャ凄い。1977 年/2019 作。MIG)



(John Prine)　　(Emmylou Harris)

*JOHN PRINE:The BBC Sessions
　～The Lost Broadcasts 1971-1973　C
（1971 年 BBC2 のテレビ番組のライヴ音源から６曲と 1973 年 BBC の FM ラジオのライヴ音源から８曲の全 14 曲。大半の曲が John Prine の 1971 年のデビュー･アルバムからのナムバーで、ギターの弾き語りでうたわれる曲の数々は、素朴でデビュー当初の彼の唄本来のスッピン魅力が楽しめる。1971 年/1973 年/2019 作。Sutra）
*JOHN PRINE:Bottom Line　D
（二枚組ライヴ。1978 年、ニューヨークのボトムラインでのライヴ。FM ラジオの音源から全 30 曲。"Pink Cadillac"収録のメムバー{John Burns,Howard Levy,Tom Pickarske,Angelo Varias}がバックアップ。1978/2015 作。All Access）
*EMMYLOU HARRIS:Callin' Me Home　¥2980
（コメントの余地のない E.Harris の放送局音源のライヴ四枚組。全 60 曲。先ずディスク１は E.Harris & The Hot Band による 1975 年のライヴで、全 17 曲。ディスク２は E.Harris & The Hot Band による 1976 年のライヴで、全 14 曲。ディスク３は E.Harris & The Hot Band による 1978 年のライヴで、全 14 曲。そしてディスク４は E.Harris With David Bromberg による 1970 年のライヴが 9 曲{滋味豊か!}と E.Harris & Band による 1989 年の Newport Folk Fes のライヴが 3 曲と 1994 年のソロが 3 曲の計 15 曲。2018 作。Smokin' Badger）
*BOB DYLAN:Travelin' Thru, 1967 - 1969
　～ The Bootleg Series, Vol. 15　¥3490
（「ブートレッグ･シリーズ第 15 集」はボブ・ディランが 1967 年から 1970 年の期間にナッシュヴィルに行った旅の記録だという三枚組。1967 年作の"John Wesley Harding"や 1969 年作"Nashville Skyline"のセッションや Jonny Cash とのセッションに加えて、1970 年作の"Self Portrait"のセッションなどの未発表曲集{ディスク１が 15 曲、ディスク２が 19 曲、ディスク３が 16 曲の計 50 曲}という夢のようなボックスセット。1967 年/1969 年/1970 年/1971 年/2019 作。Sony Music）
*GREGG ALLMAN:Laid Back　¥2980
（1973 年の Gregg Allman の名盤"Laid Back"になんとまあヤケクソとしか思えないようなデモ音源やリハーサル音源やライヴ音源など未発表音源曲 26 曲も加えた 34 曲収録の二枚組。全曲リマスター処理。"These Days"などは別音源が四曲も。しかししかし、元が良いだけに、あのけだるさ漂う独特な南部ムードに満ちた音楽の質の高さは不変。聴いてる間は"Laid Back"を繰り返し聴いてるような懐かしく、夢を見ているような至福の時間。1973 年/2019 作。Mercury）
*CROSBY,STILLS,NASH & YOUNG:Fillmore East 1970　B
（CSN&Y の"Deja Vu"が発売されたのが 1970 年の三月。本作は同年 6 月 7 日にニューヨークの Fillmore East で行ったコンサートのライヴで、FM ラジオの音源からの全 30 曲収録の二枚組。各人が個性的な SSW の四人のライヴ･アルバムとして奥が深い。CSN&Y の 1971 年作"4 Way Street"＋αの内容。1970 年/2019 作。Hobo）
*DICKY BETTS & GREAT SOUTHERN
　:Live At Rockpalast 1978 And 2008　D
（1978 年と 2008 年の Rockpalast 放送用映像＆音源を編集した 3CD＋

2DVD の５枚組セット。1977 年の Dickey Betts & Great Southern の一作目と 1978 年の二枚目"Atlanta's Burning Down"からのナムバーを中心に Allman Brothers 時代のナムバーを交えた曲目で、ライヴならではのエネルギッシュな演唱はやはり圧巻。DVD1 は 115 分で DVD2 は 100 分。1978 年/2008 年/2019 作。MIG)

*GENE CLARK & FRIENDS:Live At The Three T's B
(1985 年５月にインディアナのクラブでの Gene Clark と仲間達の FM ラジオ収録ライヴ。確認できる仲間達は元バーズの Michael Clark と John York に元ビーチボーイズの Blondie Chaplin に元フライング･ブリトー･ブラザーズの Rick Roberts。気骨ある Gene Clark の弾き語りとザ･バンド風ロックとカントリーっぽくない時代のバーズ風ロックが混在した弾き語りを含めてエネルギッシュなライヴ。1985 年/2019 作。Leftfield Media)

*STEVE GOODMAN:Artistic Hair B
(1983 年作"Artistic Hair"に 1994 年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ音源曲 10 曲を加えた全 22 曲。1983 年/2019 作。Ominivore)

*STEVE GOODMAN:Affordable Art B
(1984 年作"Affordable Art"に"Street Of London"を含む 1983 年の未発表ソロ･ライヴ音源曲 7 曲と 1994 年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ曲 1 曲を加えた全 20 曲。1984 年/2019 作。Ominivore)

*STEVE GOODMAN:Unfinished Business B
(1987 年作"Unfinished Business"にソロを中心にした未発表ライヴ音源曲 9 曲{内一曲は"Don't Get Sand In It"のデモ曲}と 1994 年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ曲 1 曲を加えた全 19 曲。1987 年/2019 作。Ominivore)

*ORPHAN:Everyone Lives To Sing B
(Orphan{Eric Lilljequist{ヴォーカル､ギター}と Dean Adrien{ヴォーカル､パーカッション}のフォーク･デュオのバンド}の 1972 年の一枚目。ゲストで参加の Jonathan Edwards の唄にも通じるヒューマンな味わい。1972 年/2016 作。紙ジャケ。韓国 Big Pink)

(Book/ＢＲＩＴＡＩＮ＆ＩＲＥＬＡＮＤ他)

*DAZZLING STRANGER "Bert Jansch And The British Folk And Blues Revival" ¥3980
(by Colin Harper。P376。2000 年刊。Helter Skeler)

(CD/ＢＲＩＴＡＩＮ＆ＩＲＥＬＡＮＤ他)

(Bert Jansch)

*BERT JANSCH:Avocet (Expanded Anniversary Edition) D
(2/1 入荷予定。1977 年のイタリアでの未発表ライヴ音源からの 3 曲

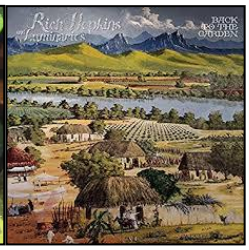
を加えた 40 周年記念盤。1977 年/1979 年/2020 作。Earth)
*THE GREEN HOUSE BAND:Anthology A
(Madeleine Worrall の魅惑の女性シンガーをヴォーカルに据えた英国フォーク・ロック・バンドの The Green House Band の 2003 年作の理想のブリティッシュ・フォーク・アルバムの"Mirage"とダウンロードのみで発売された 2008 年作の"Big Sun"の二枚組。メムバーは Michael Gregory,Dave Berry,Neil McArthur,Graeme Taylor 等など Albion Band,Maddy Prior Band,Gryphon,Home Service などで活躍したお歴々。トラッドの名曲がずらり並んだ"Mirage"は耳を疑うほどの清楚で魅力的なブリティッシュ・フォーク。"Big Sun"は打って変わって、勢いのあるフォーク・ロック。Madeleine のシンギングにも艶がある。聴き較べてみるのも楽しい。全 24 曲。2003 年/2008 年/2019 作。Talking Elephant)
*SUTHERLAND BROTHERS & QUIVER:The Albums ¥5290
(1971 年-1979 年の間に発売された Sutherland Brothers と Sutherland Brothers & Quiver の八枚のアルバムにボーナス曲 19 曲{一枚目"Sutherland Brothers Band"１曲、二枚目"Lifeboat"７曲ほか}を加えた全 103 曲収録の八枚組ボックスセット。Sutherland Brothers はこのセットがあれば、大満足。2019 作。Sony Music)
*HENRY McCULLOUGH:Ballywonderland B
(2016 年に他界した Henry McCullough の 1998 年作"Blue Sunset"以降の音源からのコンピレーション CD。全 15 曲収録。Gary Brooker, Nick Mason,Paul McCartney,Chris Stainton,Albert Lee,Paul Carrack & Paul Brady による未発表ライヴ音源曲"Live Long Rock & Roll"を含む。本人から CD を仕入れていた頃が懐かしい。2019 作。Absolute)
*HENRY McCULLOGH BAND:FBI Live(2007 作。Mundell Music) D
*HENRY McCULLOGH BLUES BAND:Belfast To Boston D
(2001 作。Walk Away)
*DONOVAN:Bottom Line 1976 B
(Donovan の 15 枚目"Slow Down World"リリース直前の 1976 年４月にニューヨークのボトムラインで行われた FM ラジオ収録ライヴ。"Slow Down World"収録の Dark Eyed Blue Jean Angel"と The Mountain"に"Catch The Wind","Lalena,"Mellow Yellow", "Hurdy Gurdy Man"等の名曲ほか全 19 曲。ギターの弾き語りを中心にしたスタイルによる Donovan の唄は終始絶好調。まるで特等席で楽しむドノヴァン・ライヴ 1 時間 20 分。1976 年/2019 作。Unicorn)
*DONOVAN:Greatest Hits Live ¥2980
(1986 年、バンクーバーでのライヴ＋ボーナス曲３曲＋未発表音源曲１曲の計 18 曲。検品して送ります。2001 作。Varese Sarabande)
*DONOVAN:Try For The Sun - The Journey Of Donovan ¥4500
(3CD＋1DVD のボックスセット。3CD は 1964～2004 年の未発表音源曲 15 曲を含む全 60 曲。2005 作。Sony。保管期間長期なためビロード張りのケースやブックレットに自然劣化が見られます)
*PHILLIP GOODHAND-TAIT & THE STORMSVILLE SHAKERS
:Ricky-Tick...40 Years On C
('Phillip Goodhand-Tait & the Stormsville Shakers'時代 {1965-1966}の 10 曲。2005 作。Span TV)

（LP/ＢＲＩＴＩＳＨ　ＦＯＬＫ）

*BERT JANSCH:Moonshine ¥2690
（名盤中の名盤。LP 盤。1973 年作。1973 年/2015 作。Earth）

*BERT JANSCH:L.A. Turnaround ¥2890
（名盤中の名盤。1000 枚限定カラー{青}LP 盤。アルバム未収録曲４曲を追加収録したダウンロード･コード付。1974 年作。1974 年/2018 作。Earth）

[CD/ＵＳＡ{Folk､Rock}系]



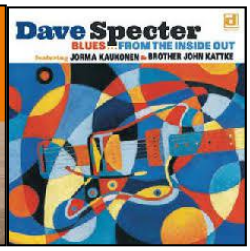
（Terry Allen） （Water And Sand） （Rich Hopkins）

*TERRY ALLEN & THE PANHANDLE MYSTERY BAND
:Just Like Moby Dick B
（嘘でしょ！Terry Allen の新作､それも Panhandle Mystery Band を従えての新作！1980 年代初めに彼の初期のアルバムと出会って､入れ込んで販売しましたっけ。ハーマン･メルヴィルの長編小説｢『白鯨』(Moby Dick)のように｣と題された本作は､冒険心旺盛で様々な悲喜劇が T.Allen のアクのあるヴォーカルで朗々とうたわれる。やや円やかになった印象はあるものの､Terry のヴォーカルの覇気と毒気は変わっていない。Charlie Sexton,Jo Harvey Allen,Bukka Allen,Richard Bowden,Lloyd Maines 等のバックアップはいぶし銀のテックスメックス～テキサス･フォークとして味わいが深い。女性 SSW の Shannon McNally とのデュエットも聞き物。本作発売時､T.Allen は 76 歳。2020 作。Paradise Of Bachelors）

*WATER AND SAND:Catching Light A
（Water And Sand はヴェテラン SSW の Todd Thibaud と同じくヴェテラン SSW の Kim Taylor の男女のヴォーカル･デュオ。本作は二枚目だが､聴くのは初めて。男女の心ある良きシンガーが手を組めば､こんなに魅力的なアルバムが作れるという見本のようなアルバム。二人は二人で創作した人生の悲喜交々の唄を実に丁寧にうたっていて､Todd の物語るような朗々としたヴォーカルと Kim の内にシンガー魂を感じさせる表現力豊かなヴォーカルの､それぞれの色合いの特長を活かしたヴォーカル･デュエットの妙は､ゾクゾクっとさせられると同時にそれぞれの唄の魅力が引き立って聞こえてくる。おまけにアコースティックからルーツロックの幅のサウンドが滅茶苦茶いかしてる。2019 作。Blue Rose）

*RICH HOPKINS AND LUMINARIOS:Back To The Garden B
（何ですか!?1992 年からアリゾナのタクソンを拠点に活動しているという Rick Hopkins と彼のバンドの本作の凄さ。Neil Young & Crazy Horse に心底影響を受けたという Rick のロックは､半端じゃない。Crazy Horse の荒削りさを温存した重量感あるルーツロックと 70 年代西海岸風ロックは､70 年代アメリカン･ロックのスピリットを受け継ぎ､果敢に体現していて凄い魅力。Rick と Rick の奥さんの Lisa Novak のヴォーカルも､そしてとりわけエ

レキギターがぶっとく輝いている。2019 作。Blue Rose)



(Paris Texas)　　(Dave Specter)

*PARIS TEXAS:When You're Gone　　B
(Paris Texas を名乗るベルギーのアントワープの五太郎バンドによる本作は、米国音楽の酸いも甘いも知ったような味わいのあるご機嫌な米国フォーク・アルバム。SSW の Gerrit Hüppertz{ヴォーカル、ギター}と Dave Crokaerts{ヴォーカル、ギター}を中心に結成された Paris Texas の音楽は、70 年代、米国のフォーク・クラブで気の合うフォーク・シンガーとミュージシャンが集まって結成したようなあの時代の SSW の雰囲気と自由な空気感があって、滅茶苦茶和んでしまう音楽。タイムスリップして、シカゴかどこかのフォーク・クラブに迷い込んだような気分。愛すべき音楽。残りのメムバーは Dirk Peerear{ヴォーカル、ドブロ}, Jan Michielsen{ヴォーカル、マンドリン}, 2019 作。TRAD)
Maarten Michielsen{ヴォーカル、タブルベース}

*DAVE SPECTER:Blues...From The Inside Out　　B
(Featuring Jorma Kaukonen{ギター} & Brother John Kattke{ヴォーカル、ピアノ、オルガン}の 35 年のキャリアを誇るブルース・ギタリストの Dave Specter のシンガー＆ギタリストとしてのデビュー作。ソリッドなブルース・ギターにドラムス、ベースにホーンが加わったブルース～南部ロックは 60 年代後半から 70 年代のブルース系音楽のコアの味わいとパワーを保持し、しかも Dave Specter のヴォーカルは 70 年代の南部系 SSW のようなヌーボーとした味わいを発散していて、何とも味わい深く魅力的。ゲスト・シンガーだが、シカゴを拠点に活動する女性 SSW の Sarah Marie Young のソウルフルな南部ロックは、だめ押し的に圧巻。2019 作。Delmark)

*JACK TEMPCHIN:One More Time With Feeling　　D
(穏やかに昔のことを懐かしむ"One Of Good Old Days"で幕開けする Jack Tempchin の新作は続く Jack Tempchin 作で Eagles のヒット曲"Peaceful Easy Feeling"から若かりし頃にタイムスリップしたかのような年季が入ってやや懐古趣味ながら、輝き感のあるカントリーロックを自然体で体現していて、最高な気分になる。これはもう 70 年代の西海岸ロック＆ＳＳＷファンへの最高の贈り物。プロデュースは Uncle Jim's Music の Gary Nicholson。音楽シーンで同じ時代を過ごし、気心の知れた音友の手腕が大きく功を奏した感がある。2019 作。Mailboat)

*AD VANDERVEEN:Final Refuge　　A
(オランダのヴェテラン SSW の Ad の新作は、ギター、ピアノ、バンジョー、スティールギター、ハーモニカ等によるサウンドは木漏れ日感があって、齢を重ねて到達したかのような落ち葉ふかふかの穏やかな唄たちだ。その穏やかな唄たちは、フレッシュなアコースティック・サウンドの輝きの中で、実に味わい深く、どちらかと言うと渋いタイプの唄なのに、夢見心地な趣がある。出来過ぎな

くらい凄く良く出来たSSWアルバムだ。時折聴くことの出来るAdとKersten De Ligneのハーモニーが夢見心地さを増す。2019作。Continental)

*JEREMY NAIL:Ghost Of Love A

(テキサスのオールバニーという町出身のSSWのでギタリストのJeremy Nailの新作で二作目。テキサス出身ということは忘れた方が良い。Jeremyの唄は白日夢的で一種独特だ。それは"Windmill"や"Paradise"や"Angels Will Fall"等の収録された曲名からもおおよそ感じ取れるが、どこか夢の中にいるような現実感のないぼんやりした唄とカラフルなギターをフィーチャーした独特な"Peaceful Feeling"なルーツロック。すべてが緩やかに流れてゆく。2019作。Coast To Coast)

*BRENT MOYER:Truth Trust Dreams And Heart B

(お宝発掘。ナッシュビルのSSWのBrent Moyerの1998年のアルバム、昔よく聴きました。Steve Goodmanを少し軽めにしてリラックスした雰囲気の心地よいフォーク、カントリー、ブルース、テックスメックス等が混ざり合ったルーツロック・スタイルのSSWアルバム。Brentの唄と共にBrook Langtonのスティール＆ラップ・スティールほかによる土臭いサウンドの旨みは今も褪せず。1998作。Brambus。検品してお送りします)

*GEORGE ENSLE:Build A Bridge A

(Townes Van Zandtが「George Ensleは最も影響力のある尊敬すべきSSWの一人」と賞賛するテキサスのＳＳＷのGeorge Ensleの2008年作。どことなくJerry Jeff Walker風なのだが、Bill Staines風でもあって、唄に爽やかさが感じられる。2008作。Berkalin/検品してお送りします)

*POINT QUIET:Walking In The Wild a

(Point QuietはSSWのPascal Hallibert率いるオランダの五人組だが、音楽は一応ルーツロック系だが、シンガーのPascalのソロ・アルバム的色合いが濃い。オランダのシンガー＆バンドというのは忘れた方が良い。Pascalの唄は実に緩く渋い。Lenard Cohen風に詩的に練り上げられた唄は、超然とすら感じられもする。そして滋味 豊かな彼の唄は、聴けば聴くほど味わいが深い。究極のスルメ味ＳＳＷアルバムと言っても過言ではない。前に出ない奥行きのある「音」も職人技。名盤の域。2019作。Continental)

*CODY CANADA & THE DEPARTED:3 a

(本作でのバンドの編成はCody Canada{ヴォーカル、ｴﾚｷ&ｱｺｰｽﾃｨｯｸ・ｷﾞﾀｰ他}とJeremy Plato{ヴォーカル、ﾍﾞｰｽ他}とEric Hansenheavy{ﾄﾞﾗﾑｽ}の三人組ルーツロック・バンドの四枚目。リーダーのCody Canadaはテキサスのレッドネック・シンガーのタイプで、テキサス・スタイルのフォークやルーツロックをベースに南部ロックや西海岸ロックにまで色気を出して、バンドのフォーク～ロックを彩る。ヴェテランの風格。2018作。Blue Rose)

*HANS THEESSINK:Journey On a

(全11曲中９曲でTerry Evansがバッキング・ヴォーカルを務めている1997年のソロ。この時代も真っ直ぐに南部音楽志向の音楽。脂がのってる。新作を聴けば、彼が愛する音楽に揺るぎがなかったことがわかる。Blue Groove)

*RICHARD DOBSON:Here In The Garden A

(Townes Van ZandtやGuy Clarkと共にテキサスのフォーク・シー

ンを引っ張ってきたRichard Dobsonの六枚目。本作はRichardが1999年にドイツをツアーした時に組んだバンドのリーダーのThomm Jutzをギターと共同プロデューサーに迎えて制作したロッキン･カントリー･スタイルのアルバム。彼の諸作の中で最も唄に勢いが感じられるアルバム。土臭い音も美味しい。2013作。Brambus)

*THE NORMAN FISHINTACKLE CHOIR
:One Kind Of Bait In The Bucket a
(72年作"Out The Window"と73年作"Shimmy She Roll,Shimmy She Shake"のJim Pulteのバンドの2007年作。Windstorm)

*JOEL ZOSS:Florida Blues B
(ラップ包装無し。2015作。Blizpik)

*ERIC ANDERSEN:Ghost Upon The Road ¥1290
(1988作。Alert Music。検品をして送ります)

*ALAN GERBER:Fools That Try ¥1290
(1997作。Mugwamp。検品をして送ります)

*ALAN GERBER:The Boogie Man ¥1290
(1999作。Mugwamp。検品をして送ります)

*ALAN GERBER:Chicken Walk A
(2004作。Mugwamp。検品をして送ります)

*ERIC TAYLOR:The Kerrville Tapes ¥1090
(2003作。Silverwolf。検品をして送ります)

*MUDDY WATERS:The Muddy Waters Woodstock Album A
(1975年/1995作。検品をして送ります)

(発掘！以下の二点、昔よくあったプラケースでパッケージされたCDです。パッケージを外してお送りします)

*DAVID MASSENGILL:Coming Up For Air B
(1992作。Flying Fish)

*SUNSHINE SKIFFLE BAND:Beat It,Blow It,Strum It,Hum It! B
(1992作。Flying Fish)

[CD/ＵＳＡ{female}他]

(Itasca)

*ITASCA:Spring B

(Itascaこと女性SSWのKayla Cohenの新作で二枚目。不思議な魅力の女性SSWアルバムだ。米国西部のフォー・コーナーズ{大半がネイティヴ・アメリカンの居住地}という地域の風景と歴史にインスパイヤーされて制作したという本作だが、自身が爪弾くのフィンガー・ピッキング・ギターの鮮やかな音色と夢でも見てるかのようなアンニュイなヴォーカルは心地よく彼女独特な唄の世界に誘われていく。音楽はアコースティックで春の明るさが感じられるが、唄と音楽全体から醸し出される夢か幻かの不思議感は、ある種対象的なNick Drakeの不思議感にどこか通じる。静かな衝撃作。2019作。Paradise Of Bachelors)

*MEENA CRYLE & THE CHRIS FILLMORE BAND:Elevation A

(Meena Cryleなる凄い女性シンガーをヴォーカルに据えたオーストラリアの南部ロック・バンドのMeena Cryle & The Chris Fillmore Bandのドデカい南部ロック・アルバム。南部フィーリング豊かなMeenaのヴォーカルが圧巻な上に、Meenaの夫でギター達人Chris Fillmore率いるバンドの南部ロックは抜群。現在、南部ロック系の女性シンガーで、Meena以上の実力派女性シンガーは思いつかない。2019作。Continental)

*HANNAH ROSE PLATT:Letters Under Floorboards A

(Neil YoungやMartha WainwrightのHannahの新作で二枚目。パンチ力あるルーツロック・サウンドでノリノリのヴォーカルで幕開けし、一発でノックアウトさせられる本作だが、Emmylou Harrisに似た魅力的な声とストーリーをじっくりとうたう力は並はずれて素晴らしく、ルーツロックな音作りも基本はHannahのギターの弾き語りをベースにしたもので、ルーツロックの質が高い。そういう意味ではプロデューサーでギタリストのThomas Collisonの手腕は見事。ゲスト:Sid Griffin。2019作。Continental)

*CAROLINE HERRING:Verses A

(テキサスはオースティンを拠点に活動するヴェテラン女性SSWでフォーク・シンガーのCaroline Herringの新作で八枚目。古典的な聖歌やゴスペルの詩歌に影響を受けたというCarolineの唄は、個人目線の一般的な米国フォークとは趣を異にし、ひと言で言えば、柔和で瑞々しい包容力のあるフォーク。Carolineの唄には春の草花や春の日射しのようなフレッシュな輝きがあり、ギターやピアノなどの演奏も同様な輝きがある。唄はAllison Krauss の自宅スタジオで三日間で収録したそうだ。小鳥の囀りが音楽と共に聞こえてきそうな音楽の空気感。2019作。Continental)

*THE LASSES:Undone B

(当店人気のオランダの女性フォーク・デュオ"Lasses"の新作。ヴォーカル&ギターのMargot MarahaとSophie Jennaの二人 がうたうのは、米国、、スコットランド、アイルランドの伝統歌と二人の自作曲やSandy DennyやDavid Francey等のフォーク系シンガーの作曲曲。計13曲。彼女達が紡ぎ出す穏やかに熟成されたフォークは、英米フォークの原点的な滋味豊かな味わいを円やかに醸し出していて格別。2019作。The Lasses)

*DAVINA SOWERS AND THE VAGABONDS:Sugar Drops A

(ミネソタを拠点に2006年から活動するDavina & The Vagabondsの新作。古いブルースやジャズの世界を往年の黒人女性シンガーのムードとサウンドを体現するシンガーやグループの中でも、彼

らは 1930～40 年代のディキシーランド･スタイルのホーン･セクションを伴ったニューオーリンズ音楽をベースに独自のレトロ音楽を魅力的に体現している上に､Davina のハスキーでブルージーなヴォーカルは､往年の黒人女性シンガーのムードばっちり。流石 13 年のキャリア。2019 作。Red House)

*MARYANN PRICE:Hot'n'Cole A

(名盤発掘。Dan Hicks & His Hot Licks や Asleep At The Wheel や Kinks{"Preservation Act 2"}などのレコーディングの参加でも知られるテキサスの女性シンガーの Maryann Price の 1997 年作。本作は Cole Porter の誕生日にオースティンのカフェで行ったライヴで､バックを務めるはテキサスきってのジャズやスウィングのミュージシャン。全体的な印象は Maria Muldaur の "Waitress In The Donut Shop"{1974 作}をよりジャズ寄りにアレンジした感じで､かなり本醸造で大人のムード。11 曲中 6 曲が Cole Porter の曲。ラップ包装なし。1997 作。BAM)

*MARIA MULDAUR:Meet Me At Midnite A

(1994 作。Black Top。検品してお送ります)

*FRED JAMES & MARY-ANN BRANDON:We Belong Together a

(ヴェテラン SSW でギタリストの Fred James とスワンプ女王の Mary-Ann の共演盤。2011 作。SPV)

*SUSAN TRUMP:What The Hill People Say C

(1989 作。Susan Trump Music。検品してお送ります)

*ARIANE LYDON:Still She Moves A

(ラップ包装なし。2004 作。Overt)

*HAZLEWOOD:Journey(ラップ包装なし。1990 作。Hazlewood) C

[CD/ＣＡＮＡＤＡ]

*THE SMALL GLORIES:Assiniboine & The Red A

(Small Glories は Wailin' Jennys のオリジナル･メムバーの Cara Luft とマルチ楽器奏者{本作ではアコースティック＆エレキギターを担当}でシンガーの JD Edwards の二人組。実績のある Cara のシンガーとしての魅力は承知していたが､相方の JD Edwards も､ルーツ志向タイプのシンガーとしても凄い魅力なのを知った。阿吽の息で絞り出すようにうたう二人のヴォーカルは､土埃舞うルーツ･サウンドを伴って､信じられないほど見事な男女のヴォーカル･デュエットを見せつけている。ヴォーカルもルーツ･ロックなサウンドもドラマティックで覇気がある。2019 作。Compass)

*RICHARD NEVILLE:Old Souls a

(Richard Neville はカナダ東部のラブラドル半島の SSW。ラブラドル半島の人々や文化に触発された自作の唄の数々は､ほっこりしていて､古くからの友の唄を聴くように体にしみわたる。ギターの弾き語り＋カントリー･ロック風のサウンドは､彼の温厚な唄とともに何とも心地よい。2011 作。SingSong)

*BONNIE DOBSON:Take Me For A Walk In The Morning Dew a

(Bonnie Dobson の 2014 作。録音は英国のロンドン。Her Boys と名付けたグループ{B.J.Cole もﾒﾑﾊﾞｰ}を伴って制作された本作は､衰えを知らぬ歌声と決して懐古趣味的ではない今の Bonnie の音楽が瑞々しく表出されている。2014 作。Hornbeam)

*MURRAY McLAUCHLAN:The Songbook...New Arrivals a

(M.McLauchlan の本作は"Eddie"というミュージカルの為に Murray

が作詞作曲した唄 14 曲。ノスタルジック･ムードの Marruay の唄が心地よい。2006 作。EMI。検品してお送りします）

[CD/UK, IRELAND]

(Deborah Rose)　(Gemma Mae Anderson)　(Nils Lofgren)

*DEBORAH ROSE:The Shining Pathway　B

(Joni Mitchell,Sandy Denny,Bob Dylan 等との出逢いが自身の音楽の方向性が決まったという南ウエールズ出身の女性 SSW の Deborah Rose の新作。新鮮な響きのアコースティック･ギターを中心にピアノやヴァイオリンの伴奏を伴って聞こえてくる Deborah の唄は何かを祈るかのように穏やかで、時空を超えた深い味わいがある。彼女のヴォーカルは天使のように澄んだヴォーカルの時もあれば、霧がかかったようなスモーキーなヴォーカルの時もあるが、唄の清らかさと悠々さで一貫している。各種楽器の伴奏は主に本作のプロデューサーの Ben Walsh によるものだが、Deborah の唄に寄り添った控えめながら独創性に富むサウンドが、Deborah の唄をリフレッシュしている。7 曲目"Nigel"というナムバーは家族付き合いをしているという Eva Cassidy の父親との共作。2020 作。Deborah Rose)

*GEMMA MAE ANDERSON:Life　B

(レコーディング･スタジオがシェトランドであることからシェトランドの女性 SSW と思われる Gemma Mae Anderson のデビュー作。13 歳から唄作りをしているという Gemma は 17 歳の時に関節リウマチを発病。本作はセラピストの Alice Mullay との会話の中から、自分の唄で音楽セラピーのチャリティー･アルバムを制作するというアイディアが生まれたという。音楽セラピーというと癒やしの音楽をイメージしがちだが、「人生の光と影」的な Gemma の唄は影のある唄であっても、また曲調がミディアムテムポであっても、Gemma のひと言ひと言噛みしめるようなヴォーカルと軽やかなフォーク･ロック風サウンドは光射す優しい音楽に聞こえる。唄の持つ力について、改めて考えさせる唄によるポジティヴな音楽セラピー･アルバム。気分は健やか。裏ジャケにチャリティー番号が記されている。2019 作。Gamma Anderson)

*NILS LOFGREN:Blue With You　B

(Nils Lofgren{ヴォーカル、ギター、キーボード}の長年の音楽仲間の Andy Newmark{ドラムス}と Kevin McCormick{ベース}を自宅スタジオに招いて制作した Nil の新作は、信じられないと思うが、今が旬の Nils 流ロックで圧倒する。体感的に心地よいドラムス＆ベースのサウンドを伴った Nils のヴォーカルとエレキギターはロックの神様が乗り移ったかのようにご機嫌さまっしぐら。仲間に恵まれると、これほど音楽のパワーが増し、心身に響くのかと、感心してしまう。加えて Bruce Springsteen のバッキング･ヴォーカルで知られる Cindy Mizelle 他の女性バッキング･ヴォーカルが南部ロッ

ク臭を放っていてロックの質を高めている。12 曲中６曲は Lou Reed との共作。2019 作。Cattle Track Road)

*NILS LOFGREN BAND:Live D

(Nils Lofgren Band～N.Lofgren、Timm Blery{ﾄﾞﾗﾑｽ}、Buck Brown {ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ、ｷﾞﾀｰ、ヴｫｰｶﾙ}、Wade Matthews{ﾍﾞｰｽ、ヴｫｰｶﾙ}～の 2002 年、米国メリーランド州アナポリスでの二枚組ライヴ。"I Dont Wanna Talk About It"、"First Time Ever I Saw Your Face"等を含む全 23 曲。Nils Lofgren はいつもかっこいい。2003 作。Hyperension。検品してお送りします)

*LORRAINE JORDAN:Send My Soul B

(両親がアイルランド人でウエールズ生まれの女性 SSW の Lorrane Jordan の新作は、いつの間にこれほどの SSW に成長したの？！と耳を疑うほど、心動かされる唄の連続。他作曲とは言え、輝く唄を発表していた頃の Mary Black のような輝きのある唄たち。本当に耳を疑うほど一曲一曲がワンパターンではなく素晴らしく、息が止まるほど唄心も表現力も充実しきっている。珠玉の収録曲 12 曲全曲が自作曲というのも驚きだ。w.Sean Whelan,John Wallace, Steafan Hannigan,Cormac Byrne,etc. 2019 作。Hazellville Music)

*LOUISE CONNELL:Squall Echo Tale B

(スコットランドの女性 SSW の Louise の本作は、これまでにリリースした三枚のシングルを一枚のアルバムにまとめた 18 曲収録のファースト･アルバム。細やかな神経の行き届いたシンプルでエレガントな美しい音楽と感受性豊かで細やかなニュアンスに富む印象的なヴォーカルは耳に新鮮で、フォーク風だが、ヴァイオリンやチェロが優雅さを演出し、ウクレレやギターが夢っぽさを演出し、エレキギターが爽快さを演出し、新感覚のフォークを超えた独自の音楽世界を創作している。ヒドゥン･トラックに可愛らしい曲が隠されている。ジャケットは英国の著名ヴィジュアル･アーティストの James Marsh によるもの。2019 作。9th Story)

*RACHEL SERMANNI:So It Turns A

(スコットランドの女性 SSW の Rachel Sermanni の三枚目。スコットランドから離れて、ベルリンの Jazzanova スタジオでライヴ録音された本作は、Rachel のささやくような不思議感のあるヴォーカルは自身のキラキラ感のあるギターなどを伴って、じわりじわりと川のせせらぎ感や森の木漏れ日感が感じられる彼女独特なアンニュイな世界へと誘う。音楽的にはフォークからフォーク･ロックの幅の音楽だが、創作された音楽は Rachel のナチュラル感のあるヴォーカルに呼応して、有機的なナチュラル感があって、Rachel の唄と空気のように一体化している。Rachel Sermanni のサイン入り。2019 作。Rachel Sermanni)

*ODETTE MICHELL:The Wildest Rose B

(素朴な味わいが素敵なハートフォードシャーを拠点に活動する女性 SSW の Odette の初アルバム。トラッド曲"True Lovers Farewell"以外の曲は全曲 Odette の自作曲。Megson の Stu Hanna のプロデュースによる本作は、ほのかに英国トラッドの香りのする爽やかで、愁いのあるブリティッシュ･フォーク。ある種 70 年代の純良英国フォークとして素直に「良いなあ」と思ってしまう。プロデューサーの Stu に加えて、Phil Beer や Cara Dillon のツアー･メムバーの Toby Shaer のお二人が心から付き添って、野のバラのよ

うに美しい Odette の着飾らない唄を優しく引き立てている。2019 作。Odette Mitchell)

*PIERS BROWNE:Wensleydale B

(棚で発見。Piers Browne はヨークシャーの風景画家で SSW。「ウェンズリーデール」という地名をタイトルにした本作は、画家的なセンスが花開いた{?}ジャンル分けが困難なブリティッシュ・フォーク＋α。ヴォーカルの雰囲気は Ashley Hutchings 風だが、音楽がポップで女性バッキング・ヴォーカルを伴う曲などは南部ロックっぽい。彼自身は音楽は歌詞を絵描くような感覚で音楽を創っているのだろう。フォークからロックまでの幅で音楽はカラフルで夢の音楽のよう。1994 作。Shorthorn)

*DENNY BARTLEY:Midnight Feast A

(お宝発掘。Irish Group の Last Night's Fun のヴォーカル＆ギターの Denny Bartley の 2003 年作のソロだが、久し振りに聴いて身震い。Bob Dylan や Ewan MacColl や Lal Waterson などの曲を 70 年代ブリティッシュ・フォークの芳香漂う美麗なギターを爪弾き、偉大なフォークの名曲に没入するように魂を奮い立たせ毅然とうたう Denny のシンギングの何と心事なこと。全 12 曲すべてが圧巻。2003 作。ADA)

*ANY TROUBLE:Live At The Venue B

(お宝発掘。Christine Collister とのデュオや Richard Thompson Band 参加でも知られる Clive Gregson が結成したパブ・ロック・バンドの Any Trouble の 1981 年のライヴ。Bruce Springsteen 作の "Growing Up" 以外の曲は全曲 Clive Gregson 作。Elvis Costello 風のパブ・ロックは清々しい。そして今日の Richard Thompson のヴォーカルに似てると思うことしきり。1981 年/1988 作。Line)

*JOANNA HYDE & TADHG Ó MEACHAIR:One For The Foxes B

(ゲスト・シンガーの Roisin Ni Ghallogaigh とのデュエットによるイエーツの "Prelude" で幕開けし、同じく二人のデュエットによるイエーツの "Tread Softly" で幕を閉じる Joanna Hyde{ｳﾞｫｰｶﾙ､ﾌｨﾄﾞﾙ} と Tadhg Ó Meachair{ｱｺ､ｳﾞｫｰｶﾙ} の男女の二人組による本作は、女性フォーク・シンガーとアイリッシュがミックスした清々しいアイリッシュ・フォーク。2017 作。Joanna Hyde & Tadhg Ó Meachair)

*NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow B

(Naomi はまるで英国の Emmylou Harris。今の Emmylou ではなく、70 年代の。Naomi の声の響きは白人系アメリカン・ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが、土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの。鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏を中心にしたサウンドも新鮮。2011 作。Dusty Willow)

*PAUL MILLNS:Unsang Heroes B

(Paul Millns の 1997 年録音で 1998 年リリースのアルバム。1998 作。April Music)

*IAIN MATTHEWS:Contact C

(2004 年 12 月ドイツでのアコースティックなライヴ。w.Richard Kennedy{ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ}, Mike Roelofs{ｴﾚｸﾄﾘｯｸﾋﾟｱﾉ}。"Woodstock" を含む全 14 曲。CD-R 仕様。2007 作。It'sAboutMusic.com)

*ALISON O'DONNELL:Exotic Masks And Sensible Shoes A

(Mellow Candle の Alison O'Donnell の新作。前作 "Climb Sheer The Fields Of Peace" の延長線上の独自の「夢のようなドラマ」

は本作ではシンプルに深みを増している。2019 作。Floating World)

*JENNIFER CROOK:Carnforth Station A

(ハープ奏者で SSW の Jennifer Crook の三枚目。旅の思い出など、Jennifer が紡ぎ出す音楽は自然な抑揚があって、詩情豊か。声自体が美しく魅力的だが、うたう詩のリズムから発生するメロディに彼女の情感が乗り移った印象で、夢の中で唄の旅をする気分。Jennifer{ヴォーカル、ハープ他}に Eliza Carthy Band の Beth Porter{チェロ、フィドル、ハーモニー・ヴォーカル}、Jackie Oates Band の Mike Cosgrave{ギター、アコ、ハーモニー・ヴォーカル}のトリオ編成。ピカー。2014 作。Long Tale)

*DAVID HUGHES:I Can Explain a

(Jacqui McShee と Gerry Conway がほぼ全曲でバッキングの本作は彼独特な自己陶酔的暗鬱さと 70 年代風ブリティッシュ・フォークの陰影とが交差する中で、いつもながらの彼独特な世界が生み出されている。ブリティッシュ・フォークの名盤。w.Bert Jansch, Helen Watson,Chris While,Julie Matthews,Martin Brunsden。2004 作。Folkcorp)

*PAUL STEPHENSON:Mother Nature's Rules C

(ハイブリッド SACD。英国人の SSW の Paul Stephenson の新作。Paul の唄は James Taylor が英国のカントリーサイドで悠々自適の生活を送り、良き隣人達と人生を楽しむかのような穏やかで心和む唄。そんな唄も魅力的だが、彼が奏でるアコースティック・ギターのマジカルな響きも凄く魅力的。アコースティックな高音質にこだわる Stockfisch らしい音響創りがより彼のギター・サウンドの魅力を引き出し、唄と音楽の鮮度を上げる効果をもたらしている。Lea Morris のバッキング・ヴォーカルが心和ませる。2018 作。Stockfisch)

*REG MEUROSS:Reg Meuross C

(ハイブリッド SACD。もう何枚もソロ・アルバムを発表していて、ヒューマニティーある彼の唄はフォークフェスなどで人気の SSW という。以前のアルバムには Karen Tweed や Phil Beer や Jackie Oates なども参加したという。その Reg Meuross の新譜。初めて聴く Reg の唄は「何て心優しいの！」。メロディはソフトでヴォーカルは深呼吸をするように落ち着きが深い。ここでも Stockfisch のワンランク上を行くアコースティック・サウンドが見事で、夢見心地な Reg の唄を本当に夢見心地にしている。おそらく彼のアルバムでこれほど美しいアルバムはないのでは？！2018 作。Stockfisch)

*WIZZ JONES,PETE BERRYMAN & SIMEON JONES :Come What May a

(おそらく W.Jonnes{ヴォーカル、ギター}が P Berryman{ヴォーカル、ギター}と S.Jones{サックス、フルート、ヴォーカル}を誘って制作された「真夏の夜の夢」のような W.Jones 流ブリティッシュ・フォーク。2017 作。Riverboat)

*KIERAN HALPIN:Akoustik D

(SSW アルバムの名盤。1992 作。Kieran Halpin)

*HUW AND TONY WILLIAMS:Junction Twenty Six D

(ブリティッシュ・フォークの名盤。1991 作。Steam Pie)

*GRAHAM LYLE:Something Beautiful Remains B

(Gallagher&Lyle の Graham Lyle のソロ。ほろ酔い気分。2003 作。

Hypertension)

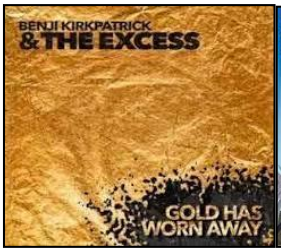
[CD/FAIRPORT&ALBION FAMILY]

*FAIRPORT CONVENTION
:Farewell Farewell-40th Anniversary Edition A
(1979 年の Fairport のライヴ･アルバム"Farewell Farewell"の 40 周年記念アルバム。収録曲は"Farewell Farewell"に 1979 年のツアー音源曲 2 曲と 1980 年のシングル曲"Rubber Band"を加えた全 14 曲。メムバーは Simon Nicol,Dave Pegg,Dave Swarbrick,Bruce Rowland の四名。当時は過去の名作と比較して過小評価していたが､今聴くと､今日のフォーク･ロック･バンド"Fairport"の活動停止＆再出発宣言のアルバムのように聞こえもする。過去の名曲を果敢にロックする音楽を聴いていると､Sandy Denny の声も聞こえてくるような気がする。1979 年/1980 年/2019 作。Edsel)
*ALISTAIR HULETT & DAVE SWARBRICK
:The Cold Grey Light Of Dawn(1998 作。Musikfolk) C

[DVD/ＥＮＧＬＡＮＤ] PAL

※PAL 専用 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰ/ﾊﾟｿｺﾝで再生可能
*NIC JONES:The Enigma Of Nic Jones A
(1982 年二月の交通事故の振り返りから幕開けする Nic Jones のドキュメンタリー DVD。2010 年の"Sidmouth Folk Festival"での Nic Jones Trio{Nic Jones,Joe Jones,Belinda O'Hooley}のライヴ他 88 分。Topic)
*MADDY PRIOR THE CARNIVAL BAND
:An Evening Of Carols & Capers A
(Maddy Prior & The Carnival Band が 2003 年に行ったクリスマスツアーのライヴ。ライヴ 33 曲 97 分と Extra Feature21 分 30 秒。ケースの解説書留めには元々解説書なし。ラップ包装なし{開封}。2005 作。Park)

[CD/ＥＮＧＬＡＮＤ]



(Benji Kirkpatrick) (Old Swan Band)

*BENJI KIRKPATRICK & THE EXCESS:Gold Has Worn Away B
(John Kirkpatrick､Sue Harris 夫妻の息子で Bellowhead､Faustus そして Steeleye Span の一員の Benji Kirkpatrick{ｳﾞｫｰｶﾙ､ｱｺｰｽﾃｨｯｸ&ｴﾚｷｷﾞﾀｰ､ﾌﾞｽﾞｰｷ}が Bellowhead の Pete Flood{ﾄﾞﾗﾑｽ}とジャズ､フォーク､ロック等のベース奏者の Pete Thomas と組んで発表した新作。何ですか！この凄さは！これは確かに英国のフォーク･ロックだが､彼の親世代のフォーク･ロックとは一線を画すストレートにロックしたエネルギッシュで耳にフレッシュな英国フォーク･ロック。Benji はトラッド/フォークをベースにした独自の音楽のアイディアが豊富にあって､そこにおそらくロックの

パワーが欲しかったのだろう。Benji がはじき出すサウンドは Martin Simpson の英米フォーク＆ルーツ音楽の幅で緻密で泥臭く豊か。ヴォーカルも何かが乗り移ったかのように高潔。親世代のフォーク･ロックを超えてしまった。2019 作。Westpark Music)

*THE OLD SWAN BAND:Fortyfived B

(イングランドのダンス･バンドの大御所の Old Swan Band の結成 45 周年記念アルバム。メムバーは Martin Brinsford,Jo Freya, Paul Burgess,John Adams,Flos Headford,Neil Gledhill。本作は地元イングランドのみならず、アイルランド、米国、スコットランド、スウェーデン、デンマーク、ケベック、オーストラリアそしてドイツにルーツを持つダンス曲を彼らのスタイルで演奏したもの。イングランド･スタイル化した他国のダンス曲は、どれもイングランドの草原で楽しくダンス気分。このノリは本当に平和な気分。全 14 曲。デビュー作"No Reels"から 43 年。2019 作。Wildgoose)

*THE CANNON HILL IRREGULARS:In Their Prime A

(Anthony Ingle,Graeme Taylor,Michael Gregory,Jon Davie の四人のツワモノによって結成された The Cannon Hill Irregulars なる英国フォーク＆カントリーダンス･バンドのフォーク･ロックの何と魅力的で楽しいこと！Albion Dance Band～Albion Band 系イングランド･スタイルのフォーク･ロックの心髄と言うとかたぐるしくなるが、その心髄をヴォーカル･スタイルや音楽の隅々に盛り込んだような美味し過ぎるフォーク･ロック。やってるバンドの連中も、エレキギター、ちょっとやり過ぎじゃない!?そのアカペラ根性入ってるなあなどと思うほど、思う存分にフォーク･ロックしていて、感動の嵐。昔取った杵柄？のパワーは凄い。2019 作。Talking Elephant)

*SANDRA KERR:Rebels With Her Chords B

(自身のコンサーティーナの弾き語りに娘の Nancy Kerr がハーモニーで加わった自作曲"Young Girl Upon The Road"で始まるヴェテラン･フォーク･シンガーの Sandra Kerr の本作は、イングランド北東部の伝統音楽をベースにした Sandra 流に消化されたトラッド･スタイルで、トラッド曲や自作曲を N.Kerr & James Fagan 夫妻と一緒にホームメイド感覚で演唱する。その、例えば自宅の庭で生演奏するようなオープンな感覚がすこぶる気持ちよい。Nancy & James が Sandra の 70 歳の誕生日に贈ったという曲は、ばっちり Nancy & James 風で息をのむ。2019 作。Sandra Kerr)

*THOM ASHWORTH:Head Canon A

(Folk Radio は「現代の Martin Carthy」と絶賛するイングランドの若きトラッド･シンガーの Thom Ashworth の比類なき新作。ベースギター奏者でギター系楽器の奏者でもあるが、ベースギターの低音とドラムスが地響きを起こし、毅然としたシンギングが素晴らしいトラッドの名曲"High Germany"で幕開けする本作は、Thom の揺るぎないシンギング、それも原野に立ち、遙か彼方に向かってシンギングするかのような見事なシンギングに骨抜きにされる。渋いフィドルの伴奏であろうが、無伴奏であろうが、またフォークロック調であろうが縦横無尽。若いが、器が大きい上に、トラッドをうたう唄心と独自のセンスに基づく自由な表現力は、他の英国フォーク/トラッド･シンガーを凌ぐ。2019 作。Thom Ashworth)

*TOM LEARY:Calm Waters C

(お宝発掘！Ric Sanders 一押しのイングランドのフィドル奏者で

ギターやブズーキの演奏も鮮やかにこなす Tom Leary の 1997 年の唯一のソロ。アコースティックなトラッド･フィドルや Ric Sanders 風ロック･フィドルに加えて、ブルースやジャズ等の音楽性も持った器の大きな演奏家による言うなれば汎英米モザイク･フォーク。Dave Swarbrick＋Rick Sanders＋αの型破りの才能。共演者は Ric Sanders,Phil Beer,Chris Leslie,Kevin Dempsy,Rachel Fletcher,Michael Gregory,Dave Mattacks。もし彼が Fairport に加入していたら･･･想像するだけで面白い。巷では高値。1997 作。Speaking Volume。検品してお送りします)

*RUTH NOTMAN & SAM KELLY:Changeable Heart B
(10 年振りの Ruth Notman の三枚目。本作はアイルランド系英国人シンガーでマルチ楽器奏者の Sam Kelly とのデュオ･アルバム。仕掛け人は Kate Rusby のご主人で、本作のプロデューサーの Damien O'Kane。本作は Ruth の 2007 年のデビュー作"Thread"と通じる音楽性を保持していて、"Thread"の延長線上の素朴だが極上の男女のデュエット版として結実している。Ruth の素朴なシンギングは Kate Rusby のシンギングを想起させもする。2019 作。Pure)

*THE TRANSPORTS "A Tale Of Exile And Migration" A
(Peter Bellamy の伝説的名作"The Transports"{オーストラリアへの囚人の搬送の歴史的実話をもとに制作されたバラッド･オペラ}から 40 年。その"The Transports"を新たなラインナップで、再演したもの。全 28 トラック。2018 作。Hudson)

*JOE HUTTON:Northumbrian Piper C
(Kathryn Tickell に多大な影響を与えたスモールパイプ奏者の Joe Hutton{1923-1995}の名作。1994 作。East Allen Recording)

*HUNTINGDON FOLK "Folk From Huntingdon Hall" B
(Ralph McTell,Jacqui McShee,Fairport,Albion Band,Vin Garbutt,Vikki Clayton,Alias Ron Kavana,John Kirkpatrick Band,Simon Mayer & Hilary James 他。1997 作。SVLO4CD)

*ANGE HARDY:Bring Back Home C
(音楽、ブックレット、イラストなど全て幻術品で芸術品の夢物語フォーク･シンガーの Ange の 2017 年作。自作曲 12 曲と伝統歌二曲の計 14 曲を収録した本作は、ケルト音楽風優美さと英国トラッド風優美さが感じられる不思議な夢物語の唄のアルバム。2017 作。Story)

*ANGE HARDY:Esteesee C
(英国のロマン派の詩人サミュエル･テイラー･コールリッジ{1772 年-1834 年}の詩にインスピレーションを得て創作されたアルバム。ブリティッシュ･トラッド/フォークの真の優美さを表出。独自のイングランド版的夢想浪漫世界を創出していて素晴らしい。w.Steve Knightley,Patsy Reid 他。P28 のブックレット付。2015 作。Story)

*SIMON CARE:Oh What A Caper a
(イングランドを代表する百戦練磨のメローディオン奏者の編集 CD。Whapweasel,The Lark Rise Bnd,The Albion Christmas Band,Edward 11,The Morris On Band など全 15 トラック。2008 作。Talking Elephant)

*CYRIL TAWNEY:Man Of Honour A
(1997 年のカセット･アルバムの CD 盤。ゲスト:Chris While。1997 年/2012 年。Talking Elephant)

*ROBIN DRANSFIELD:A Lighter Touch ¥2800
("Tidewave"と 1972 年の未発表音源ライヴの二枚組。全２５トラック"。2008 年。Hux)
*CHRIS FOSTER:Traces(2003 作。Green Man) B
*A L LLOYD:Bramble Briars And Beam Of The Sun A
(２枚組。2011 作。Fellside)
*A.L.LLOYD:The Old Bush Songs(1994 作。Larrikin) ¥3500

[CD/ＳＣＯＴＬＡＮＤ系]
*CLUTHA:Live From Harvard B
(2019 年の三月に亡くなったスコットランド屈指のトラッド･シンガーの Gordeanna McCulloch を擁したスコットランドのトラッド･グループ"Clutha"の 1981 年のライヴ。メムバーは Gordeanna に Ronnie Alexander{ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ}､Erlend Voy{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ､ｳﾞｫｰｶﾙ}､Callum Allan{ﾌｨﾄﾞﾙ}､Tom Johnstone{各種ﾊﾞｸﾞﾊﾟｲﾌﾟ}の五名。Silly Wizard や Boys Of The Lough ほどの知名度はなかったが､当時､Jeannie Robertson や Belle Stewart のようなバラッド･シンガーと肩を並べるシンガーと評された Gordeanna のシンギングともう一人のリード･シンガーの Ronnie によるシンギングを含めて､スコティッシュ･バンドとして既にスコテイッシュ･トラッドの完成形を体現していて､改めて彼らの偉大さを思い知らされる。2019 作。The Clutha)
*KARINE POLWART:A Pocket of Wind Resistance B
(元 Malinky のヴォーカルで､スコットランドを代表する女性フォーク･シンガーの K.Polwart の 2017 年作。本作は毎年 9 月にアイスランドやグリーンランドの海食崖からスコットランドのフォース湾を通ってファラ･フロー･ロック湖に渡ってくる雁の群れへの思いを中心に自然環境保護への思いを唄にしたもの。美しく、夢のような音楽。2017 作。Hudson)
*STUART A JACKSON:M'arach B
(副題"Gaelic Songs From My Upbringing"。スコットランド西部のモバーン出身の若きゲール語シンガーの Stuart A Jackson のデビュー作。穏やかなスコティッシュ･サウンドを伴った Stuart の柔和で初々しいシンギングは､何十年も前に Arthur Cormack のゲール語トラッド･アルバムを初めて聴いたときの感動を思い起こさせる。今どき稀有のピュアーで美しい男性ゲール語シンギング･アルバムだ。w.Mary Ann Kennedy,Nick Turner,Archie McAllister,Ross Wilson,Finlay Wells,Angus MacColl,etc. 2019 作。Clachan Music)
*BELLE STEWART:Queen Among The Heather A
(副題"Scots Traditional Songs And Ballads"。1977 年/1998 作。Greentrax)
*RUNRIG:Best Of The Last Dance - Farewell Concert C
(2018 年 8 月に Runrig の活動 45 年を記念して行われた Farewell Concert のライヴ二枚組。全 25 曲。横綱級スコティッシュ･フォーク･ロックのオンパレード。2019 作。RCA)
*RUNRIG:In Search Of Angels a
(この時代の Runrig も最高。70 年代の西海岸ロックくらいかっこいいスコティッシュ･フォーク･ロック。1999 作。Sony Music)
*RUNRIG:The Essential Runrig a

(1979 年から 1996 年までの音源からの 16 曲収録コンピレション。2007 作。Capitol)

*CALM AND RORY MacDONALD:The Band From Rockall B

(Runrig の創設メムバーの Calm&Rory 兄弟の本作は、感涙のスコティッシュ・フォーク・ロック。ロックやポップスに熱狂した青春時代に想いを馳せた心からの唄とロックはどこか懐かしくって、あったかい。2012 作。Ridge)

*DONNIE MUNRO:Fields Of The Young a

(元 Runrig のヴォーカルのライヴ音源多数含む 16 収録コンピレション。2004 作。Hypertension)

*DONNIE MUNRO:Sweet Surrender - Live Acoustic a

(元 Runrig のフロントマンの Donnie Munro のライヴ二枚組。Donnie は 2014 年に Eric Cloughley{ｷﾞﾀｰ、ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ・ｳﾞｫｰｶﾙ},Maggie Adamson{ﾌｨﾄﾞﾙ}とトリオを結成。本作はそのトリオで行ったライヴ盤。彼の唄はそのまま「スコットランドの声」として優しく、パワフル。全 19ﾄﾗｯｸ。2015 作。Hypertension)

*NORTHERN FLYWAY:Northern Flyway A

(Northern Flyway はシェトランド生まれのシンガーでマルチ楽器演奏家の Inge Thomson とシンガーで SSW で鳥類生物学者の Jenny Sturgeon と SSW でマルチ楽器演奏家の三人の女性アーティストをフィーチャーした鳥保護音楽プロジェクト。鳥の鳴き声も取り込んだ本作は、同じレーベルから発売された Karine Polwart{Inge Thomson は K.Polwart Band のメムバー}の自然環境保護への思いを込めた"A Pocket Of Wind Resistance"と通底する夢のように清々しいフォーク・アルバム。2018 作。Hudson)

*ALISTAIR OGILVY:Leaves Sae Green A

(スコットランドの伝統歌を中心に Andy M.Stewart や Davy Steele 等の曲を伸び伸びとシンギング。そのスコットランド・スタイルのシンギングが気持ち良い。w.Steven Polwart,Aly Macrae, Inge Thompson。Produced by Mattie Foulds。2012 作。Greentrax)

*MAIRI SINE CHAIMBEUL:Thall An Loch Aillse A

(Mod の優勝者でスコットランドのゲール語の女性トラッド・シンガーの Mairi Sine Chaimbeul の 2007 年の名作。彼女の素朴なガーリック・ソングの数々は、荒野に咲く一輪の花的に美しく味わい深い。w.Mary Ann Kennedy,Seoras Campbell,Findlay Napier, Hamish Napier,Ali Hutton,James Graham,Gillebride MacMillan。2007 作。Macmeanmna)

*ALEXANDER MCCALL SMITH & JAMES ROSS
:These Are The Hands A

(作家のアレグザンダー・マコール・スミスがスコットランドの過去と現在の海にまつわる出来事や話などを綴った詩にピアニストの James Ross がスコットランドのトラッドのスタイルで曲を付け、元 Cherish The Ladies の Michelle Burke とスコットランドのヴェテラン・トラッド・シンガーの Kathleen MacInnes の二人がソロで、あるいはデュエットしたアルバム。二人のシンガーは感情移入が豊かで、かつ James Ross のスコティッシュ流ピアノの表現力が豊かで、大衆的なスコティッシュ・ソングとして感動の深さが深い。2019 作。Greentrax)

*IAIN MacFARLANE & INGRID HENDERSON
:Cockerel In The Creel B

(Blazin' Fiddles のヴェテラン･フィドル奏者の Iain MacFarlane とヴェテラン女性ハープ奏者の Ingrid Henderson の夫婦によるフィドルとハープ又はフィドルとピアノのデュエットをベースにしたスコティッシュ･トラッド･アルバム。Iain はフィドルのみならずアコーディオンやホイッスルも演奏するが、二人の音楽はアットホームな音楽。演奏はスコティッシュ･トラッドのセンスが散りばめられていて、スコティッシュの香りを放つスッピンのサウンドが心地よい。2019 作。Old Laundry Productions)

*WILLIAM JACKSON:Duan Albanach B

(Ossian の創設メムバーでスコットランド屈指のハープ奏者 William Jackson の 2003 年のアルバム。前半は自身のハープとティン･ホイッスルによる演奏集で、スコティッシュ･スタイルの粒立ちの良い見事なハープの音色は、耳の掃除をしてくれるほど美しく気高い。後半は Celtic Connections のライヴで、スコットランドの古代詩に触発されて作曲した曲集。Mackenzie Sisters に Iain MacDonald, Jerry O'Sullivan, Alasdair Fraser 等の精鋭達をゲストに迎えて、優美かつ空想的な音楽世界を創作する。Mill)

*OLD BLIND DOGS:Room With A View A

(Old Blind Dogs の結成 25 周年記念アルバム。メムバーは、J. Hardie に Aaron Jones{ヴォーカル、ブズーキ他}, Ali Hutton{バグパイプ、ホイッスル、ヴォーカル}、Donald Hay{パーカッション、ヴォーカル}。数々の名盤を世に送り出してきた Old Blind Dogs の名に恥じぬ横綱級スコティッシュ･トラッド。2017 作。OBDmusic)

*RACHEL WALKER:Fon Reul～Sholus (2006 作。Skipinnish) B

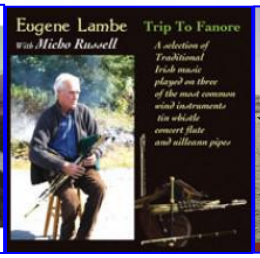
*EWAN MacCOLL:The Legend Of Ewan MacColl a

(18 曲収録の編集盤。1995 作。Nectar)

*THE COMPLETE SONGS OF ROBERT BURNS Volume 7 B

(Karine Polwart, Bobby Eaglesham, George Duff ほか。1999 作。Linn)

[CD/ＩＲＥＬＡＮＤ系] (NEW ARRIVAL)



(fidil) (Eugene Lambe) (Tabhair Mo Ghrá Go Conamara)

*FIDIL:Decade ¥2390

(2/1 入荷予定。Altan のマレードの甥で Caitlín Nic Gabhann & Ciarán Ó Maonaigh の Ciarán とドニゴール州 Glenties のキャンベル一族のフィドル･グループの一員の出身で Aidan O' Donnell と 2017 年に"The Tin Fiddle"という目を見張るような素晴らしいアルバムを発表している Damien McGeehan のフィドル･トリオの新作。結成は 2008 年だから、結成 10 周年記念の思いが込められたアルバムなのだろう。ドニゴール･スタイルの伝統的かつ冒険心旺盛なフィドルの饗演楽しみ！2019 作。Raelach)

*EUGENE LAMBE WITH MICHO RUSSELL:Trip To Fanore C

(2/1 入荷予定。GTD Heritage からリリースされたクレアのイリア

ンパイプス、ティンホイッスル、フルートの演奏家の Eugene Lambe の旧作"Trip To Fanore"{GTD Heritage}に Micho Russell とのコラ ボを４トラックを含む６トラックを加えてリリースされた編集盤と思われる。全 18 トラック/32 曲。Micho Russell と並んで評価されるべきクレアを代表する演奏家で楽器職人だ。2019 作。Trad Ireland)

*TABHAIR MO GHRA GO CONAMARA
"Sean-nós Singing From Co.Galway D
(1970 年代初期に英国人フォーク研究家の Terry Yarnel がゴールウェイで収録したフィールドレコーディング音源からの全 22 曲。Seán 'ac Dhonncha,Rita & Sarah Keane{4 曲},Pádraic Ó Conghaile,Tom Pháidín Tom,Cáit Bean Uí Chonluain,Colm Ó Caoidheáin 等のシャンノースがフィーチャーされているとのこと。36 ページのブックレット付。2019 作?Veteran)

[CD/ＩＲＥＬＡＮＤ系]

デジパック･タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。

(Heidi Talbot) (Aoife Scott) (Christy Moore)

*HEIDI TALBOT,SOPHIA STINNERBOM,ROGER TALLROTH,MAGNUS STINNERBOM:A Light In The Dark C
(John McCusker の奥様で、個性的で胸キュンな美声で多くのファンを持つアイルランドの歌姫の Heidi Talbot のシンギングをフィーチャーした本作は、北欧風厳かなクリスマス～冬の音楽。本作のアイデアは Vasen の Roger Tallroth{各種ｷﾞﾀｰ}がスコットランドで Heidi と共演したときに持ち上がったという。Roger は演奏仲間の Sophia Stinnerbom{ｳﾞｨｵﾗ･ﾀﾞﾓｰﾚ、ｷﾞﾀｰ}と Magnus Stinnerbom{各種ｷﾞﾀｰ、ﾊﾟﾝﾌﾟｵﾙｶﾞﾝ、ｱｺ他}を誘って実現した本作は、北欧の澄んだ夜空にキラリと輝く一等星のような印象。音楽の空気感はキリッと北欧トラッドなのだが、歌姫の唄は紛れもなく、アイリッシュな清らかさに充ちた Heidi の歌声。曲目は Heidi が本作の為に作ったと思われる自作曲や Roger Tallroth が本作の為に作ったと思われる自作曲の他トラッド曲やきよしこの夜や Ron Sexsmith 等の SSW の曲等などだが、タイトル通り"A Light In The Dark"な空気感とキラリ感に充ちていて、感動が深い。異種コラボから生まれた奇跡の名盤。2019 作。Tallroth Music)

*AOIFE SCOTT:Homebird B
(Frances Black のお嬢さんの Aoife Scott の二枚目。前作で感じた「木漏れ日のような微妙に輝く表情を持った唄」「海辺を散歩をしていて、真珠を見つけた感動」は本作も不変。録音はナッシュビルで追加録音がダブリン。プロデュースは Alison Krauss & Union Station のギター＆バンジョーの Rob Block。おそらくナッシュビル録音の SSW アルバムの中で、本作ほど繊細で輝き感のある SSW ア

ルバムはないのでは、と思うほど主にアコースティック・ギターとバンジョーの細やかな演奏を伴ったAoifeの野に咲く一輪の花的美しさのある唄の何と素敵なこと！Aoifeの凛とした唄も良いが、大部分を占めるひっそり感のある唄達、これこそAoifeの魅力だが、その壊れそうな魅力を丁寧に音作りしたRob Blockの手腕は見事。w.Frances Black,Mary Black,Martin Black,Ron Block,Stewart Duncan,Andrew Meanney,Sierra Hull,Floriane Blancke,Peter Browne,Eamonn De Barra,James Blennerhassett,etc. 2019作。Aoife Scott Music)

*CHRISTY MOORE:Magic Nights B

(Christy MooreがDeclan Sinnott,Jimmy Higgins,Cathal Hayden,Mairtin O'Connor,Seamie O'Dowd等をバックに行ったライヴ音源を中心に編集した二枚組ライヴCD。Planxtyの一枚目収録の"Only Our Rivers Run Free"をはじめ、Jackson Browne作"Before The The Deluge"や1000回はうたっているというJimmy MacCarthy作"Missing You"やリクエストされてうたったというDan Penn作"Cry Like A Man"等など自作曲やSSWのナムバーやトラッド曲等、かれこれ50年に近いレパートリーの引き出しの中から全26曲。Christy Moore独特な円やかな中にしなやかなアイリッシュ・フォーク・シンガー魂を宿した唄が次から次。Christy Moore節も深く最高潮。2019作。Sony Music)

(J.Doyle&M.McGoldrick) (Nuadan) (Ye Vagabond)

*JOHN DOYLE & MIKE McGOLDRICK
:John Doyle & Mike McGoldrick B

(Solas～Usher's IslandのJohn Doyle{ｷﾞﾀｰ、ﾌﾞｽﾞｰｷ、ｳﾞｫｰｶﾙ}とCapercaillie～Usher's IslandのMike McGoldrick{ﾌﾙｰﾄ、ﾎｲｯｽﾙ、ｲﾘｱﾝﾊﾟｲﾌﾟｽ、ｳﾞｫｰｶﾙ}の新作。コピーライトは2018作。なめらかなM.McGoldrickのフルートの演奏とピリ辛の利いたソリッドなJ.Doyleのギターによるリール曲三曲のメドレーで爽快に幕開けする本作は、様々なタイプのアイリッシュを余裕綽々の名演奏で楽しませる。二人とも有り余る演奏技術の引き出しの中から、デュオで響かす最良の音を選んで演奏し合ったかのようなアイリッシュは心和む。演奏の豊かさのみならず、三曲でノドを振るわすJ.Doyleのシンギングが素晴らしい。Peter BellamyやKate Rusbyのシンギングで知られるトラッドの名曲"Lovely Willie"はAndy Irvineのような柔和な味わいがあって絶品。また二人はヴォーカル・デュエットでも心通わせている。旨みたっぷりのアイリッシュ。Boxroom Music)

*MIKE McGOLDRICK & DEZI DONNELLY:Dog In The Fog B

(1995年の"Champions Of The North"以来、二人による二作目。2018作。Boxroom Music)

*DERMOT BYRNE,EAMONN COYNE,JOHN DOYLE:Liag B

(何の説明も要らぬ三太郎による本作は、ドニゴール南西部の音楽

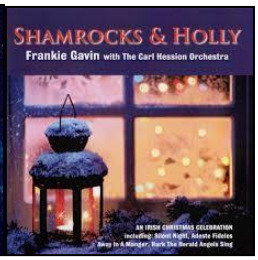
に焦点を当てた主にアコとバンジョーとギター＆ブズーキによるセッションと John Doyle のシンギングが収められたアルバム。収録曲は他の地域の音楽を含めて広くドニゴール南西部関連の、多くはマニアックな曲だが、三人はマニアの目線で見つけた曲を珠玉のアイリッシュへとグレイドアップする。本作は Tommy Peoples の霊に捧げられている。2019 作。Dermot Byrne, Eamonn Coyne, John Doyle)

*NUADAN:Dén Díobháil C

(Nuadán はウオーターフォード州のゲールタハト地区出身の若者四太郎のアイリッシュ･グループ。嘘！こんなにフレッシュなアイリッシュを演奏するイカした連中がまだいたとは！と、つい叫んでしまった若いのにヴェテランのようなクリーミーなアイリッシュを演奏し合う上に、音楽に品があって、優しい輝きがある。静かな田舎町で音楽好きの若者達が誰から邪魔させることなく、鍛錬を積み重ねて鍛え上げたような若々しく錬磨されたアイリッシュ。ブズーキもフルートもフィドルもアコも全ての楽器がよくうたう上に、サウンドのバランスが見事に取れていて、生まれ出た音楽が鮮やか。おまけに４曲の"Songs"でのシンギングは Séamus Begley のような味わいがある。ゲール語解説の英訳を読みながら聴くと、涙なしには聴けない唄も。2019 作。Nuadán)

*YE VAGABOND:Hare's Lament C

(遅ればせながら噂を聞いて聴いたら、即ノックアウト。Ye Vagabond は Brían & Diarmuid Mac Gloinn の兄弟デュオ。本作収録のアイルランドの伝統歌は祖父のアーカイブ音源から学んだという。その音源が何かは分からないが、彼らがブズーキ、ギター、マンドリン、フィドルの伴奏で自然体で創り出すアイリッシュ･フォークは、70 年代の Andy Irvine や Paul Brady や 70 年代の英国のトラッド･シンガーを想起させることから、おおよそ 70 年代の日本のトラッド･ファンの LP コレクションと似たり寄ったりではないかと想像する。アイリッシュの名曲"Willy O Winsbury"などはぼくの耳には Ann Briggs のシンギングと重なる。この兄弟のアイリッシュ･ソングはあまりに美味しい過ぎる。w. Brìghde Chaimbeul, Jesse Smith, Alain McFadden。2019 作。River Lea)



(Lily&Eileen) (Frankie Gavin with)

*LILY GEMS & EILEEN O'DRISCOLL:Early Reflections C

(Lily と Eileen のバンジョーとアコのコラボを中心にした本作は、風光明媚な西コークに育まれた音楽への敬意と音楽への愛情から生まれた若い女性二人組による清々しいアイリッシュ･ミュージック。彼女達のアイリッシュは、本当に気持ちが良い。好きな曲を愛情を込めてニコニコと演奏し合ったような、音楽する楽しさが自然に表われていて、何とも清々しい気分になる。西コークの野原でピクニック＆ダンス気分。素直にアイリッシュって良いなぁと思ってしまうアイリッシュ。最後にアイリッシュのメロディを借

用した名曲"Come By The Hills"をEileenがほんわかとシンギングしている。2019作。Lily Gems & Eileen O'Driscoll)
*FRANKIE GAVIN WITH THE CARL HESSION ORCHESTRA
:Shamrock & Holly C
(限定入荷。クリスマス曲全14曲。2013作。Tara)
*CLAIRE NIC RUAIRI:An Clár Bog Déil C
(副題"Traditional Irish Songs"。Oireachtas na Samhnaという催しのコンペティションの第一回目のアイリッシュ･シンギングのチャンピオンというClaireのゲール語のトラッドはスッと心に響く。彼女のシンギングがたおやかなのと、彼女の唄の素朴な美しさをプロデューサーのManús Lunnyが必要最小限のアイリッシュ･サウンドで丁寧に音作りしているからだろう。Manusのブズーキとギター、Martin Crossanのイリアンパイプスとホイッスルそして Tanya Nic Gairbheithのハーモニー･ヴォーカルは、アイリッシュな気品と優雅さがある。聴いていて、とても快いゲーリック･ソングだ。2019作。Claire Nic Ruairi)
*ANDY IRVINE:Old Dog Long Road Vol.1 1961 - 2012 D
(Andy Irvineの新作はAndyが熱心なファン向けに制作した二枚組限定盤。1961年から2012年におそらくAndyのライヴ音源から選出された曲集で、全24トラック収録。「曲順なんてどうでもいいや」ってな感じの時代を行き来する曲順だが、1961年と1968年音源の二曲以外の曲は、その違和感を感じさせないほど、時にハーモニカを吹き、ブズーキやギターを爪弾きながらうたうAndyの唄は、彼のスタイルと持ち味が出来上がっていて、むしろ化粧っ気のない彼の弾き語りの唄をたっぷりと味わえるものになっている。1961年当時のAndyは中々の美青年。2019作。Andy Irvine)
*MOZAIK:The Long And The Short Of It C
(2015年の９月にブダペストで収録されたMozaikの新作で三枚目。メムバーはAndy Irvine,Dónal Lunny,Bruce Molsky,Rens van der Zalm,Nikola Parovにギリシャ人女性シンガーのChrysoula Kechagioglou。Andyがリード･ヴォーカルを取るAndyスタイルのアイリッシュとBruce Molskyがリード･ヴォーカルを取るオールドタイム風米国トラッドそしてChrysoula Kechagioglouがリード･ヴォーカルを取る東欧風トラッドと三色の音楽が仲良く共存している。三色の音楽の仲を取り持つのは、Andy Irvine。Andyのシンギングは華があって魅力的な上に、他分野の音楽ではヴォーカルと演奏のバックアップが冴えている。Chrysoulaのシンギングは Marta Sebestyenクラス。2019作。Mozaik)
*KEVIN KEEGAN:The Music Of Kevin Keegan C
(お宝発掘。1924年東ゴールウェイ生まれで米国ツアー中に米国に移住したというAughrim Slopes Ceili Band{1950年代活躍}のアコ奏者の個人録音やラジオ音源からの貴重録音集。回転が速いんじゃない？と思えるほどの早弾き。全23トラック。2004作。Clo Iar-Chonnachta)
*SEAMUS TANSEY:King Of The Concert Flute C
(お宝発掘。リマスター盤。スライゴー出身で1965年オールアイルランド･チャンピオンのアイリッシュ･フルートの巨匠Seamus Tanseyの1976年のソロ。各種ダンスのリズムをきっちりと刻むCharlie Lennonのﾋﾟｱﾉの伴奏をお伴に、Seamusは即興的に生き生きしたフルート演奏を繰り広げる。アイリッシュ･フルートのお

手本。1976 作。Sound)

*CIARAN TOURISH & KEVIN DOHERTY:Hotel Fiesta B

(Altan のフィドル奏者でマルチ楽器奏者の Ciaran Tourish と Four Men And A Dog のヴォーカル兼ギター奏者の Kevin Doherty のコラボ。予想通りの Ciaran のフィドル又はフルートと Kevin のギターによるアイリッシュと Kevin Doherty のヴォーカルをフィーチャーした米国フォーク/SSW タイプの曲が混在。百戦錬磨の Ciaran のフィドルはアップテンポでスリリングなアイリッシュから、Kevin の米国風音楽にすり寄って渋いアイリッシュまで自由自在。Kevin のヴォーカルは米国の一流 SSW の味わいたっぷりで、ギターを鮮やかに爪弾き、ディランの"Boots Of Spanish Leather"等をじっくりとうたっている。2019 作。MIG)

*KEVIN DOHERTY:Strange Weather ¥1290

(米国のウッドストックにある Levon Helm Recording Studio で収録の Four Men And A Dog の Kevin Doherty のソロ。若い頃の Kevin のナイーヴな感性が光る SSW アルバム。Produced by Aaron Hurwits。ゲスト:Rick Danko,Amy Helm。1999 作。Key Recordings)

*BIRKIN TREE:Five Seasons B

(イタリアのアイリッシュ・ミュージック・バンドの Birking Tree の驚きの新作だ。全曲でパイプ奏者の Mick O'Brien の娘で RTE RnaG フィドル・コンペティションで優勝経験のあるフィドル奏者の Aoife Ní Bhriain がバンドの一員となって、いやむしろリーダーシップを発揮して演奏して制作されたもので、フィドルをメインにしてフルート、ホイッスル、イリアンパイプス、ギターなどのセッションから生み出されるアイリッシュの何とハイレベルなこと！ダンス曲ではハイレベルなセッションを繰り広げ、エアー曲では感情のこもった演奏で心底酔わせる。加えて、新加入のヴォーカルの Laura Torteirolo 嬢のアイリッシュ・スタイルの佳麗なシンギングが滅茶苦茶素晴らしく、息をのむ。2019 作。Felmay)

*BIRKIN TREE:Virginia B

(Martin Hayes & Dennis Cahill がゲスト参加の Birkin Tree の 2010 年のアルバム。2010 作。Felmay)

*GOITSE:Ur C

(Áine McGeeney がヴォーカルの一姫四太郎の五人組アイリッシュ・バンドの Goitse の三年振りの新作！通算五枚目。Áine McGeeney の高音の軽やかで佳麗なシンギングは、Karan Casey のシンギングに透明感が加わった感触で相変わらず抜群だし、新メムバーにバンジョー＆ブズーキの Alan Reid が加わったものの、バンジョー、バウロン、フィドル、アコーディオン、ギター、ホイッスルなどによる路上演奏しているような生き生きとしたアイリッシュ自体には変わりがなく、前作同様、演奏に遊び心というかひと工夫あって、結果的に他のバンドにはないひと味違う演奏を奏で出していてお見事。2019 作。Goitse Music)

*SIBEAL:Sibéal ¥2390

(ゲールタハトで育ったという若き女性シャンノース・スタイルのシンガーの Sibéal Ní Chasaide の息をのむデビュー作。メジャーレーベルからのリリースで、一般的なフォーク・ミュージックとは一線を画す高品質感のあるケルティック・ムードの厳かなサウンドの音作りが成されていて、彼女の悠久感あるシャンノース・スタイルのシンギングと相まって、心奪われてしまう。w.Steve

Cooney,Tommy Hayes,Briocan Bairead,Geraldine O Doherty,
Gucci Gelald Peregrine,Niadh & Roisin Ní Chasaide。2019 作。
Universal)

*TONY MacMAHON:Farewell To Music B

(本作は Tony MacMahon が手の震えの病なる前の 2009 年収録の未発表音源、それもスローエアーばかりを演奏したもの。全 13 曲。Tony がボタン･アコーディオンの演奏に傾けるエネルギーは、聞き流すのが失礼に思えるほど、静かな気合いに満ちたもの。全アイリッシュ蛇腹奏者が見習うべき音楽。2009/2016 作。Raelach))

*PATSY MOLONEY:The Temple In The Glen B

(リムリック出身のフルート奏者で 1977 年にフルート部門のオールアイルランド･チャンピオンという Patsy Moloney のファースト･ソロ･アルバム。Mary Corcoran のピアノ又は Noreen O'Donoghue のハープとの共演による本作は、とてもリラックスしていて、聴いていて小春日和な心地よさ。2015 作。Patsy Moloney)

*GERRY O'BEIRNE:Half Moon Bay B

(繊細系 SSW アルバムの名盤。オリジナル盤は 1997 年のコピーライトだが、本デジパック版は 1999 年のコピーライト。Gerry O'Beirne)

*GATEHOUSE:Down The Moor A

(ゲール語と英語の両方でオールアールランド･チャンピオン･シンガーの歌姫 Rachel Garvey を擁する二姫二太郎のアイリッシュ･グループ"Gatehouse"の二枚目。余裕綽々の大横綱級アイリッシュ。ゲスト:Alan Kelly,John Joe Kelly,Michael McCague,Conor & Paddy McEvoy。Matt Molloy と Altan のマレードが絶賛。2019 作。Gael-Linn)

*CHERISH THE LADIES:Heart Of The Home A

(Nollaig Casey{ﾌｨﾄﾞﾙ}が準メムバーとして参加の Cherish の本作は、アイリッシュ･シンガーの Kate Purcell にオールアイルランド･チャンピオン･シンガーの Molly O'Riardan のほか Nathan Carter、Don Stiffe、Ennis Sisters などをゲスト･シンガーに迎えて、まるで音楽を通して涙あり、笑いありのライヴ･ショーを観ているような、あの手この手で、様々なアイリッシュ･ミュージックを楽しませる。ゲスト:Donnchadgh Gough{Danú},Trevor Hutchinson {Lúnasa}。2018 作。Cherish The Ladies)

*JOHNNY ÓG CONNOLLY:Fear Inis Bearachain B

(コネマラの Inis Bearachain 島出身の"King Of The Melodeon"と呼ばれた Johnny Connolly の息子で同じくメローディオン奏者の Johnny Óg Connolly のソロ。100 年前から受け継がれているアイリッシュ･ダンス音楽の基本演奏を聴くかのような安心感の感じられる大樹のような音楽。2018 作。Cló Iar-Chonnacht)

*JOHNNY ÓG CONNOLLY:Aisling Yoshua(Joshua's Dream) C

(Johnny Connolly の息子の Johnny の 2011 年のアルバム。いやはやノリに乗ってる。清々しく若々しい。メチャ最高。w.Brian McGrath ,Mick Conneely,Garry Ó Briain,Frank Kilkelly,James Blennerhasset そして Jonny Connolly。2011 作。Og Music)

*BACKWEST:Heritage Hall A

(ゴールウェイを拠点に活動する Backwest～Maureen{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｳﾞｫｰｶﾙ} & Brendan{ｱｺ} Browne 兄妹に Fabian Joyce{ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ､ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ}と Lord Of The Dance の Peter Vickers{ﾊﾞｳﾛﾝ他}～の新作。Maureen & Brendan 兄妹によるフィドルとアコのコラボを音楽の

コアにして、ギターとバウロンが共演＆競演＆饗宴する仕掛けのアイリッシュだが、兄妹のフィドルとアコの変幻自在なジャンプ力ある演奏は神業レベルで、二人の阿吽のコラボを聴いているだけで、身体が熱くなってくる。おまけにFabian Joyceのシンギングは心にグサっ。百戦錬磨の貫禄のアイリッシュ。2018作。Backwest Music)

*LIZ CARROLL･JAKE CHARRON:Half Day Road B

(Liz Carrollの新作はカナダのケルティック･トリオのEast Pointers{2017年Juno賞受賞}のメムバーで、ギター＆ピアノ奏者のJake Charron。これぞLiz Carroll！と声を上げてしまう気力に充ちた絶品のアイリッシュ･フィドル。本作はギターでもピアノでもアイリッシュが弾ける新進気鋭のミュージシャンとのコラボ。Lizのアイリッシュはさらにレベルアップ。ゲスト:Joannie Madden。2019作。Liz Carroll and Jake Charron)

*STRING SISTERS:Between Wind And Water B

(Mairéad Ní Mhaonaigh{Altan},Liz Carroll,Liz Knowles,Catriona Macdonald{Blazin' Fiddles},Annbjørg Lien,Emma Härdelin{Garmana,Triakel}のアイルランド、北米、スコットランド、北欧のトラッド･シーンを代表するフィドル･グループ"String Sisters"の二枚目。w.Tore Bruvoll, Dave Milligan,James Mackintosh,Conrad Molleson。2018作。String Sisters)

*STRING SISTERS:Live(一枚目。2007作。Heilo) B

*IRELAND "Crossroads Of Art And Design 1690-1840 - The Music" C

(シカゴ美術館で開かれた"Crossroads Of Art And Design 1690-1840展"に合わせて制作された1690-1840年のオカロランなどのアイルランド音楽を中心に本作のプロデューサーのLiz Carrollが本展のために作曲した曲などを演奏したアルバム。演奏者はLiz Carroll,Catriona McKay,Triona Ní Dhomhnaill,Liz Knowles,Trevor Hutchinson,Mick O'Brien,Marty Fahey,Emer Mayock,Jackie Moran,Kieran O'Hare,Aoife Ní Bhrian。2015作。O'Brien International)

*BY HECK:A Toast To The 1920's A

(1911年にニューヨークに移住し、米国でのアイリッシュ･ミュージック黄金期の先導役を果たしたMick,Joe&LouisのFlanagan兄弟の初録音が1921年。本作はBy Heck～Frankie Gavin{ﾌｨﾄﾞﾙ},Martin Murray{ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ},Emma Corbett{ﾒﾛｰﾃﾞｨｵﾝ},Carl Hession{ﾋﾟｱﾉ}～を名乗るアイリッシュの三人のツワモノ達＋Flanagan兄弟の故郷出身の女性メローディオン奏者の一姫三太郎がFlanagan兄弟に捧げたアルバム。Flanagan兄弟の音楽自体が大衆受けするノリ抜群のアイリッシュだが、彼らは兄弟達のレトロだが、ビンビン躍動するアイリッシュのスタイルをベースにしつつ、超絶な演奏で音楽をブラッシュアップする。メチャ凄い。2018作。By Heck)

*HENSHAW FAMLY & FRIENDS WITH SPECIAL GUEST SHARON SHANNON:The Secret Sessions A

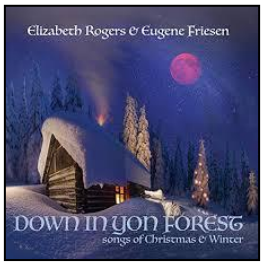
(Sharon Shannonがアイルランドのラグビー･チームの人気選手ロビー･ヘンショウと彼の家族＆友人と行った特別なセッション･アルバム。ヘンショウー家はアスローンの伝統音楽を長年にわたって演奏している家系で、ロビー･ヘンショウの祖父のビリーはバンド活動をしていたという。全曲でSharon Shannonがセッシ

ョンに参加し、和気あいあいとしたセッションの雰囲気を保ち
つつ、大半の曲で先頭に立つ演奏で、旋風を巻き起こしている。
2018 作。Ceol Music)
*FIDDLE FAIR 3 ¥3500
(Baltimore Fiddle Fair の 20 周年記念二枚組ライヴ･アルバム。音
源は 2007 年から 2011 年のライヴで選曲は Bill Robinson と Altan の
マレード。演奏者は Mairead Ni Mhaonaigh,Liz Carroll & John
Doyle,Martin Hayes & Dennis Cahill,Fidil,Lau,Aly Bain &
Phil Cunnningham,John McCusker & Mike McGoldrick,Chris
Stout & Catriona McKay,Annbjorg Lien,Dirk Powell,Darol
Anger,Bruce Molsky,Vasen 他。全 28 トラック。2012 年?。Fiddle Fair)
*EITHNE NI CHATHAIN:Eithne C
(キルデア出身女性ゲーリック･シンガーでフィドル奏者の Eithne の 2006
年作。Eithne はシャンノースやゲール語或いはｹﾞｰﾙ語、英語の自作曲
や渋いフィドル演奏や Hazel Dickens 作の米国古謡風なのや Sandy
Denny の"Who Knows Where The Times Goes"等を一曲一曲を渋
くも凛として美しくシンギングし、フィドルを素朴に奏でる。聴くほどに旨
みを増す。w.Luka Bloom,Nora Keane,Ciaran O'Grady。2006 作。
ENCCD01)
*JAMES KEANE:Heir Of The Dog a
(ニューヨークを拠点に活動するヴェテラン･アコ奏者の James
Keane の 2012 作。各種ダンスの数々は年代、地域、様々だが、それぞ
れにノリのよいダンス曲として、小気味よくも力強い。w.Eamon
O'Leary,Kathleen Boyle,Tom English。2012 作。New Folk)
*THIS IS HOW WE FLY:This Is How We Fly A
(アイルランド人フィドル＆ハルディングフェーレ奏者の Caoimhin
O Raghallaigh とクラリネット奏者の Sean Mac Erlaine とスウェ
ーデン人パーカッション奏者の Petter Berndalen そして米国人ス
テップ･ダンサーの Nic Gareiss の四人グループ。Caoimhin と Sean
がソロで、また二人奏でる音楽は、Martin Hayes の音楽をさらに自
由に膨らませたような音楽。エアー曲などは悠久の調べと化してい
る。2013 年。Play With Music)
*BAIDIN FHEIDHLIMI - Gael Linn Singles 1968-1980 A
(Johnstons,Sean O Se,Ro-og Breandan O Duill&Skara Brae,
Triona Ni Dhomhnaill,Maighread Ni Dhomhnaill,Michael
O Domhnaill&Donal Lunny,Dermot O'Brien 他。Gael Linn の稀少音
源からの全 20 トラック。2013 作。Gael Linn)
*DAMIEN MULLANE:13 C
(D.Mullane は 2005 年と 2007 年のアコとメローディオン部門のオー
ル･アイルランド･チャンピオン。アコ音楽の玉手箱。共演者は、
Donogh Hennessy{ｷﾞﾀｰ、ﾏﾝﾄﾞﾗ},Trevor Hutchinson{ﾀﾞﾌﾞﾙﾍﾞｰｽ},
Zoe Conway{ｽﾄﾘﾝｸﾞｽ},Eamon De Barra{ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ}の四名とｹﾞｽﾄの
John Joe Kelly{ﾊﾞｳﾛﾝ},Dessie Keliher{ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ、ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ}そして
Pauline Scanlon{ﾊﾐﾝｸﾞ}の三名。2013 作。Damien Mullane)
*RON KAVANA:Irish Ways ¥3500
(副題"The Story Of Ireland in Song,Music and poetry"。四枚組
ボックスセット。R.Kavana が６年以上を費やして編纂したアイルランド
の古代から今日までの歩みを歌や音楽や詩等で辿ったアイルランド音
楽と歴史の CD と本。P122 の本は紀元前 9000 年から 2006 年までのアイ
ルランドの年表付。2007 作。Proper。検品してお送りします)

*ANDREW MURRAY:Hell Or High Water A
(Tommy Flemingの後釜のシンガーとしてDe Danannに加入したイニシュボフィン島出身のトラッド･シンガーの2005年作。Len Grahamから習ったというトラッド曲二曲にRichard Thompson,Dougie MacLean,Ewan McColl等のナムバーを朗々とシンギングする。w.Gavin Raiston,Aogan Lynch,Geoff Woods,Tim O'Brien,etc. 2005作。Andrew Murray)
*CIORRAS:Silver Lining A
(アイルランドのテレビ局TG4 のDonal Lunnyの番組で結成された七人組アイリッシュ･トラッド。グループ"Ciorras"の爽快デビュー作。楽器編成はフィドル、、コンサーティーナ、各種フルート{ﾌﾙｰﾄ奏者三名。ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ奏者とﾊﾟｲﾌﾟ奏者がﾌﾙｰﾄも演奏}、イリアン･パイプス、ホイッスル、ピアノ、パーカッション、バウロン、ギター、ベース、そして紅一点Ciara Cunningham嬢の魅惑のヴォーカル。全て調和が取れて、出来過ぎのデビュー作だった。2010作。Wispy Cloud)
*KEVIN MADDEN:The Sugar Loaf A
(マンチェスター出身で、1996年のフィドル部門のオールアイルランド･チャンピオンのKevin Maddenのデビュー･アルバム。本作に聴くKevinのフィドル音楽{ｽﾛｰ･ｴｱｰ一曲以外はｱｲﾘｯｼｭ･ﾀﾞﾝｽ曲}は家庭で気心の知れた兄弟や友人と演奏することを楽しむかのような爽やかなアイリッシュ･ダンス曲の連続。共演者は、Mike McGoldrick{ﾌﾙｰﾄ},John Joe Kelly{ﾊﾞｳﾛﾝ},Gerry Conlon{ﾋﾟｱﾉ、ｱｺ},Bernie Roberts{ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ},Noely Ryan{ｷﾞﾀｰ},Tim Edey{ｷﾞﾀｰ},Pat O' Reilly{ﾌﾞｽﾞｰｷ}。2014作。Kevin Madden)
*GARRY SHANNON･ORFHLAITH NI BHRIAIN
:Loose The Head C
(CD-R。with Sharon Shannon,Mary Shannon,Majella Shannon, Steve Cooney,Mossie Griffin,Eoin O'Neill。1995作。GTD Heritage)
*JOHNNY DUHAN:Just Another Town(1992作。Bell) B
*JOHNNY DUHAN:Don Quixote(2008作。Bell) B
*JOHNNY DUHAN:The Burning Word(2014作。Bell) B
*GAVIN WHELAN:In Full Flight(2009作。Tara) A
*JOHN BLAKE,LAMOND GILLESPIE,MICK LEAHY
:The Traditional Irish Music From London B
(2003作。Archway)
*JOHN GORDON:The Humours Of Glendart B
(Traditional Irish Music Played On The Fiddle。2005作。JGCD01)
*JOHN DALY:Irish Traditional Fiddle(2003作。Ossian) B
*SEAN MAGEE:Ye Fidlers Fate B
(タイトルはFiddlersではなくFidlersとなっている。All Ireland Fiddle Champion。発売年不明。SMGCD-1001。CD-R。)
*BRENDAN LARRISSEY AND MIKE CONSIDINE:Up The Moy Road B
(発売年不明。Brendan Larrissey And Mike Considine)
*THE WEST OCEAN STRING QUARTET:As Fond Kiss C
(ゲスト:Maighread Ni Dhomhnaill。2009作。West Ocean)
*MATT MOLLOY:Matt Molloy C
(英国盤。1976年。Mulligan)
*ANDY IRVINE ・ PAUL BRADY:Andy Irvine ・ Paul Brady C

(英国盤。1976 年。Mulligan)
*GERRY O'BEIRNE:Half Moon Bay B
(繊細系 SSW アルバムの名盤。オリジナル盤は 1997 年のコピーライトだが、本デジパック版は 1999 年のコピーライト。Gerry O'Beirne)
*SARRON SHANNON:The Acoustic Tour(2003 作。Daisy) B
*JOE HEANEY
:Irish Traditional Songs In Gaelic And English C
(1963 年録音。1989/2002 年のコピーライト。Ossian。検品してお送りします)
*LIVE RECORDINGS FROM THE WILLIAM KENNEDY PIPING FESTIVAL(2002 年。WKPFCD001 C
*JOHNNY DORAN:The Master Pipers Volume 1 C
(2003 作。Na Píobairí Uilleann)
*SEAN McALOON:Stor PioBaireachta C
("Piping From The Archives"。2004 作。Na Píobairí Uilleann)
*HARRY BRADLEY:Bad Turns & Horse-shoe Bends C
(1999 作。Outlet)
*MATT McGRANAGHLAN:In Goldfiddle(2003 作。MMG007) A
*RE-JOYCE "Tunes And Songs From The Joyce Collection" C
(Jackie Daly,Maire O'Keeffe,John Faulkner,Donal O'Connor の４名による Joyce Collection からのダンス曲と唄。2003 作。Rejoyce)
*LONRADH:Whispering Sounds(2010 作。Lonradh) C
*BRENDAN BEGLEY & CAOIMHIN O RAGHALLAIGH
:A Moment of Madness(2010 作。An Irish Music Net) C
*FRANKIE GAVIN:Ireland D
(with Arty McGlynn & Aidan Coffey。1994 作。Ocora)
*JOE HOLMES:Here I Am Amongst You With Len Graham A
(副題:Traditional Irish Songs,Ballads,Lilts & Fiddle Tunes。全 14ﾄﾗｯｸ。Len Graham のｻｲﾝ入。CD-R。音質問題なし。2010 作。Carnagh Music)

[CD/ＵＳＡ{ﾄﾗｯﾄﾞ、ｱﾊﾟﾗﾁｱﾝ他}]



(Elizabeth&Eugene)
*ELIZABETH ROGERS & EUGENE FRIESEN:Down In Yon Forest B
(副題"Songs Of Christmas & Winter"。新感覚のケルティックなクリスマス･アルバム。米国ヴァーモントを拠点に活動する女性 SSW のシンギングはケルトを夢想する北米の女性シンガーらしいクリスタルな輝きのあるシンギング。Paul Winter Consort のメムバーの Eugene Friesen が新感覚のディープな味わいのあるチェロの伴奏で、厳かで深みのあるケルティックなクリスマス･アルバムを創作している。ケルティックなセンスはカナダの Loreena McKennitt に通じるが、チェロのサウンドがオリジナル

性を高めている。Loreena もアルバムに収録しているクリスマス・キャロル"Drive The Cold Winter Away"他全 10 曲。2019 作。787340 Records)

*PAPER WINGS:Clementine A

(Paper Wings は Emily Mann{ヴォーカル、バンジョー}と Wilhelmina Frankzerda{ヴォーカル、ギター、フィドル}の若き女性デュオの二枚目。ギターとバンジョーとフィドルを奏でてうたう Paper Wings の音楽は歌唱法も音楽も古き良き米国オールドタイム～アパラチア民謡スタイルのオリジナル・ソング。二人はどっぷりと古き良き音楽の世界に浸かって、凄腕の溌剌とした、そしてたまにとぼけた味のある演奏で、自作の唄をオールドタイミーな風に乗せてシンギングする。ラップ包装なし。2019 作。Paper Wings)

[CD/ＣＡＮＡＤＡ{トラッド他}]

*LOREENA McKENNITT:Live At The Royal Albert Hall D

(Loreena の新作は二枚組ライヴＣＤ。ディスク１は 2019 年 3 月 13 日に行ったロンドンの Royal Albert Hall でのライヴで全 10 曲。バンドを伴った彼女の音楽は、これまでに彼女が創り上げてきた Loreena 流ケルトをベースにした独自のケルト音楽。その音楽はアラブ音楽をも取り込んで、夢想性を高めている。本ライヴでは、彼女が花開かせた音楽が繊細に優美にダイナミックに演唱されていて、感動が深い。ディスク２は彼女の Online Store で購入できるライヴ音源曲からの全 10 曲。ディスク２はボーナスＣＤのつもりなのだろうが、Loreena の音楽の魅力がきっちりと収められていて、これはこれで完璧。Loreena は芸術家ですね。2019 作。Quinlan Road)

*LOREENA McKENNITT:Elemental A

(リマスター CD にボーナス DVD が付いた CD+DVD。1989 年/2004 作。Quinlan Road)

*LOREENA McKENNITT:Parallel Dreams A

(リマスター CD にボーナス DVD が付いた CD+DVD。限定盤。1989 年/2004 作。Quinlan Road)

[CD/ＡＵＳＴＲＡＬＩＡ]

(Ruth Hazleton)

*RUTH HAZLETON:Daisywheel C

(Kate Burke & Ruth Hazleton の Ruth のソロ。同年作の Luke Plump & Kate Burke のブリティッシュ・フォーク/トラッド風アルバムも惚れ惚れとしたが、本作はそれに勝るとも劣らず圧巻。トラッド曲と Ruth の自作曲がほぼ半々という曲目だが、先ず気候変動や女性の権利や弱者問題をグローバルな視点て唄にした自作曲や Nic Jones の唄に触発されたというトラッドの名曲"Ten Thousand Miles"や長年不思議で美しい Karen Dalton の唄に魅了

されているというトラッド曲の"Same Old Man"{"In My Own Time"に収録}等、Ruthのシンギングの揺るぎなさと奥深さは身が引き締まるほど。加えて、プロデューサーのLuke Plumbの音創りはブリティッシュ・フォーク/トラッド～フォーク・ロック＋αの彩りを創作していて、舌鼓を打つ。そして驚くのはαの彩りの発生源がRuthが奏でるバンジョー、アコースティック＆エレキギター等の楽器演奏の響きの活かし方にあること。これはマジック。ヴォーカルの感触はKarine Polwartに似てる。2019作。Ruth Hazleton)

*SIMON BRADLEY & LUKE PLUMB:Wintering Out B
(スコティッシュ・フィドル奏者のS.Bradleyと当時Shooglenifty のL.Plumbのフィドルとブズーキのコラボ。スコティッシュ、アイリッシュそしてアストゥリアスの曲を初雪の新鮮さで清々しく演奏する。ヤッホーの快楽さ。2004作。Shoogle)

*MARA:Don't Even Think(1990作。Sandstock Music) C

*MARTYN WYNDHAM-READ & NO MAN'S BAND:Back To You C
(2010作。Wynding Road)

*MARTYN WYNDHAM-READ:Starlit Skies(2012作。Wynding Road)C

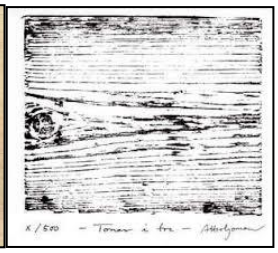
[CD/ＬＡＰＬＡＮＤ]

*ASSU:Assu B
(Áššu はサーミの伝統的なヨイク・シンガーのUlla Pirttijärviのシンギングをフィーチャーした三人組。Ullaがうたうヨイクの濃さは、並外れている。霊的というか節回しには聖と俗が混ざり合って至芸の域。素晴らしいのは彼女のシンギングのみならず、彼女のヨイクにインスパイヤーされて共演者になったという各種ギターのOlav Torgetと各種打楽器のHarald Skullerudの演奏のエスニックさとその即興的音楽の精神性の高さ。西アフリカ音楽から学んだ演奏技術と感性をフルに発揮して独自のヨイクの音楽へと深化させている。2019作。Bafe's Factory)

*INGA RAVNA EIRA/BIRET R.SARA/R.A.GUTTORM:Gilsi/Skilfu B
(副題"Electric Jazz Yoik Poetry"。二人の女性ヨイクのシンガーと一人の女性の語りによる先鋭的なヨイク音楽。音楽は語りを中心にしてヨイク・スタイルのヴォーカルがバック・ヴォーカルを務め、或いはコーラス、或いはヴォーカルで共演し、二人の演奏家が土俗的で妖艶なサウンドを鳴らす。音楽の核にヨイク本来の呪術性が脈を打っていて、その革新志向の音楽性と相まって圧倒されてしまう。2012作。DAT)

[CD/ＮＯＲＷＡＹ]

(Kelpie)


(Atterljomen)

*KELPIE:Danse Mi Vise B
(ノルウェーの妖精歌姫Kerstin Blodigとケルティック・ギター名

手でシンガーの Ian Melrose の男女デュオの Kelpie の六枚目。英題は"Dance My Song"。前作のクリスマス･アルバムに続く本作は全天候型の音楽の作りどきと思い、二人の心から愛する唄を演唱したという。白日夢というか夏の夜の夢というか、Kerstin の夢想ヴォーカルと Ian の芸術的ギターとによるケルト＆北欧ミックスの夢想音楽にアイリッシュや SSW 風ナムバーやトゥイン･ギターのインスト曲や環境活動家のグレタの運動に触発されて作ったという自作曲などを盛り込んだ色とりどりの音楽。それらの音楽は北欧の長い夏の日にふと思い起こしたようなリラックスして夢がかった音楽。ラストはジョージ･ガーシュウィン作の「サマータイム」でけだるく幕。2019 作。Westpark)

*ATTERLJOMEN:Tonar I Tre B

(Lom{ロム}というフォーク･ミュージックが盛んな地方で育った Astrid Sulheim と Bjørn Kåre Odde と Aslak Brimi の三人のフィドル奏者のトリオ"Atterljomen"による本作は、Bjørn と Aslak が長い間に収集した Lom と Skjåk という地方のフィドル音楽集。曲目は 19 世紀から 20 世紀に活躍したフォーク･ミュージシャン達の楽曲。個々に作曲者は異なるが、三人が三色の音色で織り上げた音楽は紛れもなく極北ノルウェーのトラッドであり、フィドル･ミュージック。心洗われる全 16 トラック。2019 作。Ta:lik)

*EPLEMOYA SONGLAG:Eplemoya Songlag B

(女性北欧トラッド･シンギング特有の毅然とした美しきを保持しつつ新鮮な感覚が脈打つ女性ヴォーカル･トリオの鮮烈なデビュー作。リード･ヴォーカルの Liv Uivik のシンギング･を Wenche Losnegard と Anja Eline Skybakmoen の二人がリズム楽器や伴奏楽器や喉唄の効果音でバックアップし、Liv のシンギングは天空をかけ、妖気をも帯びる。2010 作。NORCD)

*ASA JINDER:Tio Ar Som Riksspeleman 1979-1988 C

(1988 作。Eagle)

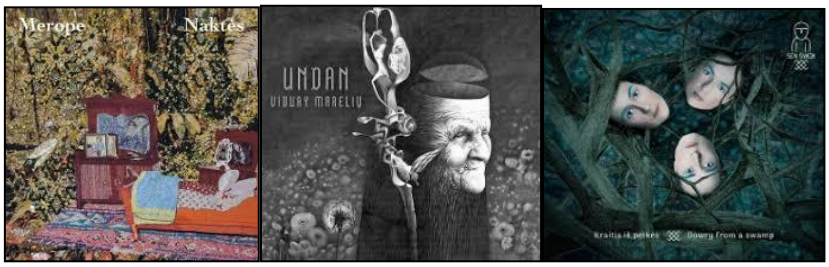
*ASA JINDER:Stilla Ro Och Nara(1988 作。Eagle) C

*ASA JINDER:Dansa Mej En Gladje(1990 作。Golden Eagle) C

*FOLQUE:Folque C

(ノルウェーのフォーク･ロック･バンドの一枚目。1975/1993 作。Pan)

[CD/ＬＩＴＨＵＡＮＩＡ]



(Merope) (Undan) (Sen Svaja)

*MEROPE:Naktes B

(リトアニアの一姫二太郎の三人組トラッド･グループの Merope の三枚目。何よりの魅力はリトアニアのカンテレ系弦楽器カンクレスの演奏家でシンガーの Indre Jurgeviliciute の東欧情緒を漂わす夢幻感のあるシンギング。カンクレスの弾き語りのみでも十分にリトアニアのトラッド/フォークとして輝いていると思うこ

としきりだが、その上にバンスリ奏者の Jean-Christophe Bonnafous とギター奏者の Bert Cools が夢幻感のあるサウンドで静かに彩りを添えている。Indre のシンギングは子守唄のように優しく、リトアニア民謡のメロディとシンギング･スタイルで悠久の音楽を創り出している。2018 作。Granvat)

*UNDAN:Vidury Mareliu B

(リトアニアの一姫二太郎の三人組トラッド･グループの Udan のデビュー･アルバム。アフリカの民族楽器の親指ピアノ"ムビラ"の演奏家でシンガーの Judita Butkevičiūtėの聖と俗とを持ち合わせたシンギングの何と魅惑的なこと！Merope の Indre のような夢幻感や悠久感があって、トラッド/フォークとして個性的で音楽の深みが深い。バンスリ、フルート奏者の Adomas Šimkūnas とギター奏者の Laurynas Vaitulevičius とによる音楽は、Merope に通じるが、ムビラの効果や川のせせらぎの音などを含む効果音の導入などミニマル･ミュージック的な不思議感を創り出している。リトアニアの古謡の世界にタイムスリップでもするかのような感覚になる。2018 作。Dangus)

*SEN SVAJA:Kraitis Is Pelkės B

(2010 年結成のリトアニアの女性ヴォーカル･トリオの Sen Svaja ～Dorota Girskienė{ヴォーカル、パーカッション}、Agota Zdanavičiūtė{ヴォーカル、チター、パーカッション}、Živilė Rimšaitė{ヴォーカル、チター、パーカッション}～の二枚目。古代リトアニアのフォーク･ソングに焦点を当てたという本作は、女性トリオ編成の「ブルガリアン･ヴォイス」のリトアニア版の印象だが、彼女達の合唱は個々のシンギングに独創性と即興性と開放感があって、女性ヴォーカル･トリオによる新感覚のフォーク･ソングを瑞々しく創作している。この分野では音楽センス的にはブルガリアの先を行っている。チターの雅びな音色が厳かで不思議なムードを添えている。2018 作。Dangus)

[CD/ＥＳＴＯＮＩＡ]

*LEANA & HARTWIN:Kodu B

(エストニアが領有するバルト海の島サーレマー島の出身で育ちの女性シンガーでバグパイプと木製フルート奏者の Leana Vapper-Dhoore とベルギーの Trio Dhoore のメムバーでアコ奏者の Hartwin Dhoore の男女の二人組による本作は、サーレマー島の静かで古代の森の空気が体感できる魔法的な自然環境の中から生まれた Leana の唄をフィーチャーした心地よいトラッド風フォーク。フランダースの Naragonia 風の音楽と肌に心地よい爽風{海風?}感のある Leana の心地な唄が合流したような音楽。2019 作。Trad)

*TRIO DHOORE:Madus Operandi B

(Koen{アコースティック&エレキ･ハーディー･ガーディー},Hartwin{アコ、ホイッスル、バグパイプ}&Ward Dhoore{ギター、マンドリン}の三兄弟による心うきうきなデビュー作。ハーディーガーディー、アコ、バグパイプを要にした楽器編成とフランス中央部のダンス音楽をベースにした音楽性は、Blowzabella と重なる。三兄弟は小編成を活かして、リズムが自由で遊び感覚とおしゃれっぽさがある。聞き流していて、気持ちが良い。2013 作。Appel)

*NAMEJS KALNIŅŠ:Laika gaitā B

(ラトヴィアのカンテレ系民族楽器の Kokle{クークル}の演奏家

の Namejs Kalniņšのソロ。彼の水面に映る木漏れ日のキラキラ感までをも表現したかのような演奏は細やかで、まるで日の光や森の妖精が舞い踊っているかのように感じられる音楽。2018 作。Lauska)

[CD/ＨＯＬＬＡＮＤ]

*FLAIRCK:Twee En Twintig ¥7500

(デビューからからの音源をまとめた 22 枚組ボックス･セット。全 228 曲。P36 の解説書付。2007 作。Flairck Music。検品してお送りします)

[CD/ＧＥＲＭＡＮＹ]

(Nadia Birkenstock)

*NADIA BIRKENSTOCK:Whispering Woods B

(ドイツの女性ケルティック･ハープ奏者 Nadia の６年振りの新作。ハープとの最初の出逢いは Sileas のコンサートだったという彼女は、Kim Robertson{米国}や Bill Taylor{スコットランド}等の名ケルティック･ハープ奏者から演奏を学んだ後に、感性豊かに独自のハープ音楽の世界を創作してきた。15 曲中 12 曲がハープ･ソロの本作は、初心回帰的であると同時に、ケルティック･ハープの心髄にまで及ぶほどの深みと美しさを表現していて、感動の深さが深い。このタイプの音楽はともすると華美な表現に陥り易いが、収録が春と夏という季節も幸いしてか、彼女の細やかな演奏は新緑の森や若葉や爽やかな風をイメージするような自然な肌触り感がみなぎっている。三つ折りジャケットを開くと、新緑の森の中で、森の囁きに耳をすます Nadia。聴きながら深呼吸気分。ケルティック･ハープ音楽の一つの到達点。2019 作。Laika)

[CD/ＢＡＳＱＵＥ]

*OSTO ETA ALE:Osto Eta Ale B

(Osto Eta Ale はバスクのボタン･アコーディオン"Txikia"奏者の Jon Ostolaza とスペインのダブルリード楽器"ドゥルサイナ"奏者の Alejandro Irizar のバスクの男性二人組。20 数年前初めてバスクのアコ音楽を聴いて、早弾きによる脳天気な陽気さに圧倒されたが、本当に久し振りに聴くアコとドゥルサイナ＋タンバリン系打楽器の演奏は、所々に奏者の陽気な歌声も混じって、アコ音楽の脳天気な陽気さ絶好調で、晴れ晴れとした気分になる。かつて愛聴したバスクのアコ音楽はどちらかと言えば、定型的民衆音楽レベルだったが、二人の音楽は定型的民衆音楽の上に二人の即興性と独創性が発揮されていて、何とも楽しい。バスクを旅行中に街角でこんな音楽と出遭えたら、さぞかし極楽気分だろう。生きたバスク音楽。ゲストの女性シンガーが加わった数曲も素晴らしい。全 18 曲。2019 作。Gaztelupeko Hotsak)

*ERRAMUN MARTIKORENA:Olerkarien Oihartzun D

(バスクの SSW の Erramun Martikorena の 1993 年作。Erramun はバスクの伝統歌のスタイルを受け継ぐ SSW でフォーク･シンガーで、男性だが、高音の声で、悲喜こもごも感の感じられる唄を爽やかに、時に愁いも感じさせつつ優しく吟ずる。当時のバスク屈指のフォーク/トラッドの演奏家がバックアップ。1993 作。Elkar)

[CD/ＳＰＡＩＮ]

*ALJIBE:El Motin De Aranjuez C
(1808 年にスペインで起こったアランフエス暴動を舞台化した劇の音楽。その音楽を担当したのがスペインの七太郎のトラッド･グループの"Aljibe"。スパニッシュ･ギター、ダルブッカ、リュート、サンフォーニャ、アコ、クラリネット、フルート、オカリナ、パーカッション等による音楽はスペインの民衆音楽をカラフルに再現し、リード･ヴォーカルの Juan Rodriguez は意気揚々としたシンギングで歴史ドラマの世界へと誘う。各メムバーの演奏力が高く、総合力でスペインの民衆音楽として音楽の質が高い。1998 作。Several)

*TRIQUEL:Rock Celta C
(1991 年結成のスペインの本作収録時六太郎の大型ケルティック･ロック･バンドの 2008 年のアルバムでラスト･アルバム。彼らのロックはアイリッシュ･トラッドや英国のフォーク･ロック直輸入型のフォーク･ロック。全ての演唱が優雅で高潔で圧巻。未体験のフォーク･ロック･ファンはぶっ飛ぶよ。2008 作。Armando)

*FOLK ON CREST:Calle De La Botica C
(Folk On Crest はケルト音楽の隆盛に刺激を受け、結成されたスペインの若いケルト系トラッド･バンド。ガリシアのムイニエーラなどをバグパイプ、ホイッスル、ギターがケルティックなサウンドを高らかに響かせ、紅一点の Yolanda Rio がパーカッションを打ち鳴らし、抜群のシンギングで釘付けにする。恐るべきスペイン発のトラッド･アルバム。2011 作。Severalia。検品してお送りします)

*DUERNA:A Mansalva B
("Prau Escenariu"という国際フォーク･ニュージック･コンテストで優勝のアストゥリアスの 6 人組ケルティック･バンド。彼らが目指す音楽は独自性の強いケルト音楽。Estefania の大地揺るがすパワフルなシンギングとガイタをフィーチャーしたケルティック･サウンドは凄い。2011 作。Folka)

*RUAILLE BUAILLE:Ru:le Bu:le C
(英国人シンガーの Duncan Bennett がヴォーカルのスペインの五人組ケルティック･バンド"Ruaille Buaille"の 2009 年作。2009 作。Several)

*JOAQUIN DIAZ:Navidad En Castilla Y Leon C
(2002 作。Barlovento Musica)

[CD/ＡＳＴＵＲＩＥＳ]

*HEVIA:Tierra De Nadie/No Man's Land A
(ガリシアではなくアストゥリアスを代表するバグパイプ奏者 Hevia の 2000 年の名盤。彼の音楽はアストゥリアスの伝統的なスタイルの上にロックっぽい斬新な音作りや土俗的香りを放つ女性ヴォーカルの起用等、極めて独自色を発散している。1992 年に

ブルターニュの音楽祭でバグパイプ部門最優秀賞を受賞。
2000 作。EMI-Odeon。検品してお送りします）

*BRENGA ASTUR:Cancios Del Gochu Xabaz　　B
（魅惑の女性シンガー Marta Elola がヴォーカルのアストゥリアスの大型ケルティック･ロック･バンド"Brenga Astur"のおそらく唯一のアルバム。1999 作。Fonofolk）

*GATOS DEL FORNU:Nacat　　C
（黒猫がマスコットのスペインのアストゥリアスの 9 人編成のケルティック･バンド"Gatos Del Fornu"の 2008 年のアルバム。音楽的には同じルト圏のガリシアのトラッド風だが、Silvia 嬢のシンギングを含めてケルティック･バンドとしてのレベルは世界クラスだ。2008 作。Fono Astur）

[CD/ＧＡＬＩＣＩＡ]

（Osto Eta Ale）

*OBAL:Baile En Massó　　B
（Obal は Iván Costa{ｻﾝﾌｫｰﾆｬ}, Jaime Rebollo{ﾆｯｹﾙﾊﾙﾊﾟ、ｻﾝﾌｫｰﾆｬ、太鼓}, Diego Langarika{ﾌﾞｽﾞｰｷ、ｷﾞﾀｰ}のガリシアの男性トリオ。サンフォーニャ{ハーディガーディ}、ニッケルハルパ、ブズーキ等により奏でられたガリシアとケルトの音楽は、ガリシア風トラッドに加えて、ブルターニュのトラッドや Blowzabella タイプのユーロ･トラッド風の音楽を繰り広げる。全体的な音楽は汎ユーロ･トラッド的な印象で、中世ヨーロッパの香りを感じさせるもの。サンフォーニャやニッケルハルパの音色が古風で気品があて、ユーロ･トラッドとして新鮮。2019 作。Inquedanzas Son）

[CD/ＩＴＡＬＹ]

*RE NILIU:In A Cosmic Ear　　C
（1979 年結成のカラブリアのトラッド･バンド"Re Niliu"の 2015 年作。カラブリアの民俗音楽に根ざしつつ、音楽性はワールド･ミュージックのレベルで多様かつ華やかで、伝統楽器とロック･ユニットの混成はロックのエネルギーをも取り込んでいて、さらなる高みに達するカラブリアン･トラッドを体現している。2015 作。Alfa Music）

[CD/ＢＵＬＧＡＲＩＡ]

*BELONOGA:Through The Eyes Of The Earth　　B
（ブルガリア国立放送合唱団"Mystery of the Bulgarian Voices"出身の女性シンガーの Gergana Dimitrova-Belonoga のソロ。2009 年に始まった"Belonoga Ethno Project"の第二弾。ブルガリア屈指のカヴァル奏者の Kostadin Genchev や Philip Koutev Ensemble のガドゥルカ奏者の Peter Milanov 他ブルガリア屈指の民族楽器の演奏家等にジャズ･トランペッターの Rossen Zahariev-Roko を

加えたバンドの音楽は､かつて聴いたことのないようなブルガリアの民族音楽の土俗的なサウンドを果敢に体現していて圧巻だし､Belonoga のブルガリアン･ヴォイス的に磨き抜かれたヴォーカルはマジカルで絶品。2019 作。CPL-Music)

[CD/ＨＵＮＧＡＲＹ]

*MESZECSINKA:Allj Bele A Melybe B
(2012 年の衝撃のデビュー作から７年。衝撃は本作においても不変。野心的なハンガリアン･バンドが少なくなった今日､北欧の魔性的トラッドを彷彿させる Meszecsinka のフォーク･ロックの深淵な野性味と無国籍な異国情緒は天下一品。加えて聖と俗を併せ持つ Oláh Annamaria 嬢のエキゾティックなヴォーカルも天下一品。昔､Kolinda を聴いたときもその未踏の境地に突き進む先進的なフォーク･ロックに衝撃を受けたが､Meszecsinka のフォーク･ロックにも同種の感動を覚える。今までに体験したことのない､孤高のハンガリー発フォーク･ロックだ。2019 作。CPL-Music)

*MESZECSINKA:Meszecsinka B
(Makam&Kolinda に初期 Kolinda 時代のエネルギー＋αを注入したかのような土着的エネルギーに満ちたフォーク･ロック､というのが前半。6 曲目の"Kuku"という民謡風の唄から傾向が変わる。7 曲目は前半と同じ傾向だが､8 曲目以降最後 11 曲目まで､今度は音楽がシンプル＆スローになり､Oláh Annamaria の唄が魔性を帯びる。メリスマの利いた悠久のヴォーカルが素晴らしい。圧巻。2012 作。NarRator)

*ORFEO:Zeneszcsoport B
(Kolinda 結成前の Kolinda のメムバー達の貴重な音源集。Kolinda の諸作はデビュー時からロック･ファンにも衝撃を走らせた完成品以上の完成品だったが､本作では､Kolinda 前夜的完成音楽､ハンガリー伝統音楽等が聴ける。試行錯誤時代の Kolinda と Kolinda の姉妹グループの Vizonto の魂震わす演唱だ。全 22 曲。P62 のブックレット付。2011 作。KOKE-001)

*ZUNGO:Szive Jarasat Hallod Az Idonek C
(副題"Hungarian Folk Music From Moldva"。かつてのベストセラー。ヴォーカルの Andrea は Marta Sebestyen タイプで魅力的かつ､各種民俗楽器を駆使した演奏も凄い。2004 作。Etnofon。検品してお送りさせて頂きます)

*BUZAI ESZTERLANC VEROFENY:Leseperve A Karpatok Aljara C
(副題"Traditional Music From Transylvania"。2005 作。Hangveto)

*CIGANYOK "A Karpat-Medencenen C
("Gypsy-In The Carpathian Basin"。2004 作。Etnofon)

*KALLOS ARCHIVUM:Uran, Irgalmazz Nekunk (2005 作。Fono) C

*TURKROS ZENEKAR:Azatmari Nepzene Az 1900-As Evekbol A
(副題"Hungarian Village Music From The 20th Century。表紙に少しシミが見られます。2000 作。Folk Europe)

*GA'ZSA:Transylvanian Folk Music A
(ブックレットに自然にできたシミが見られます。1998 年。ABT)

*MAGYAR TEKEROZENEKAR:Kertunk Alatt C
(ハンガリーのハーディーガーディーをフィーチャーした編集盤。1995 作。Fono)

[CD/KLEZMER,GYPSY,BALKAN 他]

*RAICES:Antologia De La Cancion Sefardi B
(Raices～Ma Luisa Garcia{ヴォーカル、パーカッション}、Carlos Montero {ギター、リュート、ヴォーカル他}、Antonio Lorenzo{ヴォーカル、パーカッション}～によるセファルディー{スファルディ}集。アラブ＝地中海サウンドに彩られたセファルディー・アルバムが多い中で、彼らのほのかにアラブ風の軽やかなフォークはむしろ新鮮。英語解説付。1998作。Several。検品してお送りします)

*BRATSCH:Gypsy Music From The Heart Of Europe B
(1993 年に World Network のフォーク・ミュージックのシリーズの"France"で発売された本作。五人編成のジプシー・グループの Bratsch はルーマニアやハンガリーの伝統的な音楽の楽器編成に従って、パーカッションのない楽器編成で、中央ヨーロッパのジプシー音楽に焦点を当てて、ジプシー・グループがそうであったように様々な音楽性をミックスしたジプシー音楽を創作する。詳細解説付。1993 年。Network)

*THE BEST OF ISRAEL B
(副題"Tous Les Succes Des Plus Grands Artistes"。発売年不明。Atoll。検品してお送りします)

*RAOUL JOURNO
:Tresors De La Chanson Judeo-Arabe(発売年不明。Melodie)C

*MUSIQUE JUDEO-ARABE VOL.2 "Tunisie" C
(1993 年。Club Du Disque Arabe)

*ALEXANDER FEDORIOUK:The Art Of The Cimbalom A
(2003 作。Traditional Crossroads。検品してお送りします)

[CD/ＡＬＧＥＲＩＡ]

*CHEIKH ELHASNAOUI:Les Grands Maitre De La Chanson
Kabyle Vol.2 C
(アルジェリアの都市型民衆歌謡のシャアビの大物歌手 Cheikh Elhasnaoui の 1991 年のアルバム。Club Du Disque Arabe。検品してお送りします。ブックレット劣化の可能性があります)

*ELHADJ MRIZEK:La Chanson Populaire Algerienne
Le Chaabi Vol.3 C
(アルジェリアの都市型民衆歌謡のシャアビの大物歌手 Elhadj Mrizek の 1991 年のアルバム。Club Du Disque Arabe。検品してお送りします。ブックレット劣化の可能性があります)

[CD/ＳＥＮＥＧＡＬ]

*MALANG CISSOKHO:Lotus A
(父はセネガルで"King Of Kora"として著名な演奏家で、母は著名なシンガーというコラの奏者でシンガーの Malang Cissokho の 1990 年のアルバム。彼の音楽は西アフリカのグリーオの音楽をベースにした伝統的な音楽と自作の音楽。初めて西アフリカのコラの音楽を聴いたときの感動が甦る全てがグリーオ音楽スタイルの涼やかな音楽と唄。大樹の下で昼寝気分。ゲスト:Hannu Saha {ｶﾝﾃﾚ}。1990 作。An EiNo Pruduction)

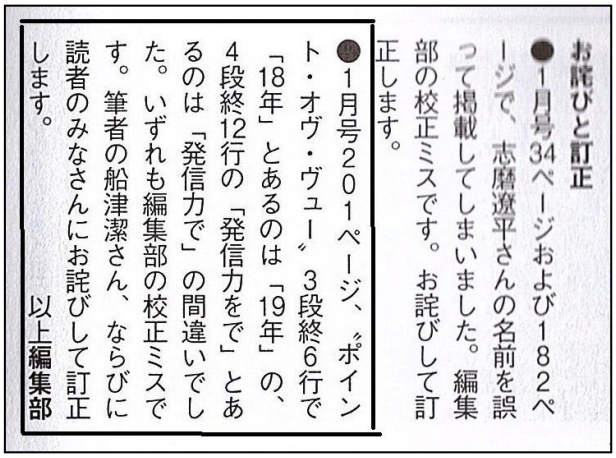
[CD/ＧＵＩＮＥＡ]

*DJELI MOUSSA CONDE:Womama A

（グリオでコラ奏者でシンガーのDjeli Moussa Condéの二枚目。本作はネルソン･マンデラに捧げられたアルバム。アフリカ音楽からラテン音楽までの幅で、カラフルでトロピカルでジャンプ力あるワールド･ミュージック。2015作。Buda Musique）

---

*ミュージック･マガジンの2020年1月号の"Point Of View"というコラムに「ワールドミュージック・ブームの立役者、英国の音楽雑誌『エフルーツ』廃刊に寄せて」という記事を書いたところ、二箇所編集部の校正ミスがあり、2月号で以下の「お詫びと訂正」掲載されました。



お詫びと訂正

●1月号34ページおよび182ページで、志磨遼平さんの名前を誤って掲載してしまいました。編集部の校正ミスです。お詫びして訂正します。

●1月号201ページ、〝ポイント・オヴ・ヴュー〟3段終6行で「18年」とあるのは「19年」の、4段終12行の「発信力をで」とあるのは「発信力で」の間違いでした。いずれも編集部の校正ミスです。筆者の船津潔さん、ならびに読者のみなさんにお詫びして訂正します。

以上編集部

「発信力で」の箇所の原文は「発信力を持ってすれば」だったのですが、編集部が行数調整で書き換えたとのことでした。以下、その箇所を含む末文の原文です。

「廃刊の表明は無い。廃刊の理由が資金難であれば、某誌の実績と発信力を持ってすれば、補えるはずだ。72歳になったアンダースン氏は、40年の節目の年が「終止符の打ち（Closing）どき」と判断を下し、最終号を離職の花道と決めていたのだろう。某誌の廃刊は晴れやかな廃刊なのである。

廃刊の表明は、表紙に隠されている。表紙のカラスは意味深な米国民謡"Crow Jane"なのだろう。この歌は殺人がテーマの歌。そのカラスがさよならのポーズ。」

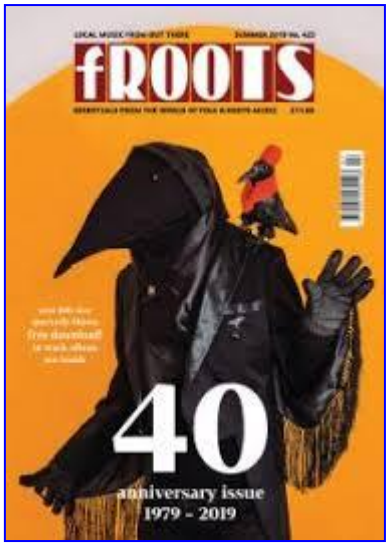
表紙のカラスが"Crow Jane"であることは、"fROOTS"の目次のページにカバー･イメージが"Crow Jane"と書かれていることから分かったのですが、そのことについては、文字数の関係で省略せざるを得ませんでした。

思うに、誌上で廃刊の表明をしなかったIan A.Anderson氏は、伝承歌のように口々に廃刊の噂が広まることを狙ったのではないでしょうか。今回のコラムの執筆は色々考える良い機会になりました。

*このコラム記事を書くために、ダンボール箱にしまっている"fROOTS"の前身の"Southern Rag"を取り出そうとしたら、ぼくがブラックホークに通っていた時代とブラックホークでレコード係をしていた時代（1973～1975年）のガリ刷りのブラックホーク･ニュースがまとまって出てきました。他には通販店を始めた頃の手書きの通販リストも（昔は字が上手かった！）。しばし懐かしい時間を過ごせました。いずれ整理して何らかの形で公開できればと思っています。

*ノルウェーのKelpieもオーストラリアのRuth Hazletonも新作で気候変動をテーマにした唄を発表していましたが、気候変動による大災害が常態化しないか心配です。今年は春の有り難みが減りそうです。

*では 2020 年最初のご注文をお待ちしています。本年も宜しくお願いします。(船津)



(″fROOTS″40 周年記念号で最終号の表紙)